

令和3年度
全国学力・学習状況調査

調査結果の概要

吹田市教育委員会

はじめに	・ ・ ・ ・ ・ P	1
1. 調査の概要	・ ・ ・ ・ ・ P	1
2. 全体の概要（１）	・ ・ ・ ・ ・ P	2
（２）	・ ・ ・ ・ ・ P	3
3. 吹田市結果より	・ ・ ・ ・ ・ P	4～5
4. 学力・学習状況の概要		

1 教科に関する調査結果

（１）各教科の概要	・ ・ ・ ・ ・ P	6～9
（２）各教科問題別分析		
小学校 国語	・ ・ ・ ・ ・ P	10～12
中学校 国語	・ ・ ・ ・ ・ P	13～15
児童・生徒質問紙 国語	・ ・ ・ ・ ・ P	16～21
小学校 算数	・ ・ ・ ・ ・ P	22～24
中学校 数学	・ ・ ・ ・ ・ P	25～27
児童・生徒質問紙 算数・数学	・ ・ ・ ・ ・ P	28～32
児童・生徒質問紙 英語	・ ・ ・ ・ ・ P	33～34
児童・生徒質問紙 新型コロナウイルス関連	・ ・ P	35～37

2 生活習慣や学習環境等に関する調査結果

（１）自分自身のことについて	・ ・ ・ ・ ・ P	38～43
（２）家庭生活・地域社会について	・ ・ ・ ・ ・ P	44～51
（３）学校生活について	・ ・ ・ ・ ・ P	52～58

おわりに	・ ・ ・ ・ ・ P	59
------	-------------	----

はじめに

本市では、教育施策や学校における指導方法の工夫改善につなげるため、児童・生徒の学力・学習状況を把握し、課題について検証しております。そのため、全小・中学校において、文部科学省が実施する全国学力・学習状況調査に参加し、教科の概要とともに、児童・生徒の意識調査から学習意欲や学習方法等に見られる課題について分析を行いました。また、今年度は新型コロナウイルス感染症が本市の児童・生徒に与えた影響についても分析を行いました。

本市の教育がめざすところは、小・中学校9年間を見通した指導の一貫性や系統性をもたせ、円滑な接続を図り、次世代を担う子供たちに、困難に打ち克ってくじけない、「知」「徳」「体」の調和がとれた「総合的人間力」を育成することとなります。

学習指導要領では、「何のために学ぶのか」という学習意義を共有しながら、授業の創意工夫や教材の改善を引き出していけるよう、すべての教科が、「知識・技能(何を理解しているか、何ができるか)」、「思考力・判断力・表現力等(理解していること・できることをどう使うか)」、「学びに向かう力・人間性等(どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか)」という三つの柱で整理されており、その力をつけるための、「主体的・対話的で深い学び」の充実が求められています。

教育委員会としましては、調査結果から、吹田の教育や児童・生徒の強みや課題を分析し、教育施策に反映させるとともに、教職員研修を一層充実させ、各校の授業研究、生徒指導等の場面におけるより具体的な指導方法の向上をめざし、確かな学力を育む取組を積極的に進めてまいります。

1. 調査の概要

(1) 調査目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 実施日 令和3年5月27日(木)

(3) 調査対象 小学校6年生・中学校3年生の児童・生徒

(4) 本市受験者数 小学校 36校 (3485名)

中学校 18校 (2772名)

(5) 調査内容

ア 学力に関する調査 : 小学校 (国語・算数)

中学校 (国語・数学)

イ 学習状況に関する調査

児童・生徒を対象に学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関するアンケート調査

ウ 学校の取組に関する調査

学校を対象に学校における教育条件の整備状況や指導方法等に関するアンケート調査

(6) 調査経緯

全国学力・学習状況調査は平成19～21年度は全員調査、平成22～25年度は3割の抽出校及び希望校による調査でした。しかし、平成23年度は東日本大震災のため、中止となりました。平成26年度以降は再び全員調査となっています。平成30年度は、平成24年度・平成27年度に続き、3年ぶりに理科が実施されました。平成31年度(令和元年度)は、従来のA(主として「知識」に関する内容)・B(主として「活用」に関する内容)問題が一体化され、また、中学校調査において、英語が実施されました。なお、英語調査において口述式の「話すこと」調査が実施されました。令和2年度は新型コロナウイルス感染防止のための臨時休校措置により中止されたため、今年度は2年ぶりの実施となります。

2. 全体の概要

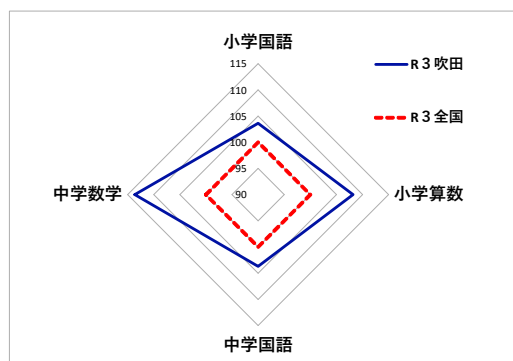
(1) 令和3年度 全国学力・学習状況調査

校種・教科別正答率と全国比值

【令和3年度】

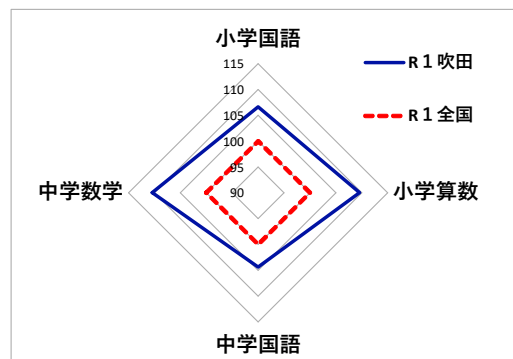
全国比值＝吹田の平均正答率÷全国平均正答率（全国を100としたときの吹田の平均正答率）

	小学国語	小学算数	中学国語	中学数学
R3 吹田	103.6	108.2	103.7	113.6
(平均正答率)	67	76	67	65
R3 全国	100	100	100	100
(平均正答率)	64.7	70.2	64.6	57.2



【令和元年度】(参考) (レーダーチャートでは、英語は省略しています。)

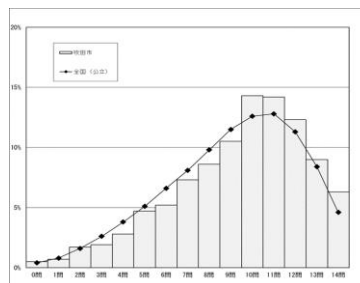
	小学国語	小学算数	中学国語	中学数学	中学英語
R1 吹田	106.6	109.6	104.4	110.4	110.7
(平均正答率)	68	73	76	66	62
R1 全国	100	100	100	100	100
(平均正答率)	63.8	66.6	72.8	59.8	56



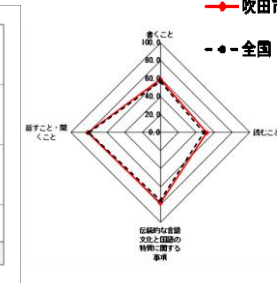
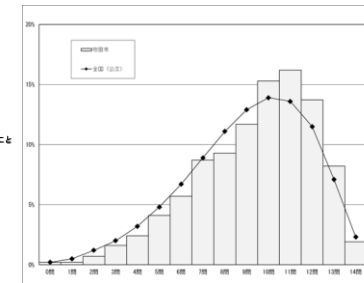
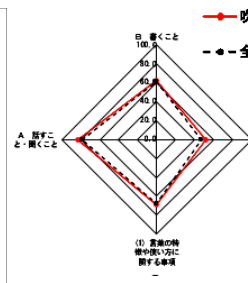
正答数分布・領域等別正答率の全国比值

国語

【小学校】

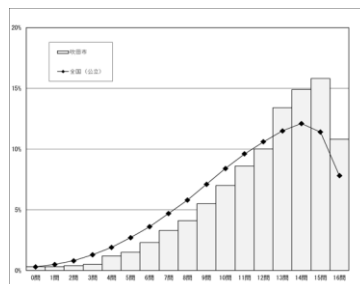


【中学校】

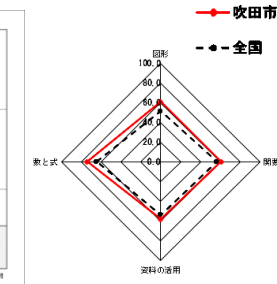
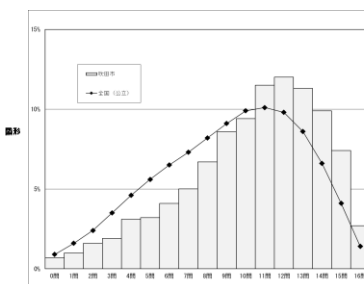
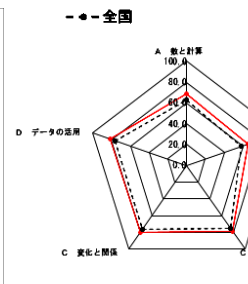


算数・数学

【小学校】



【中学校】



小・中学校の国語、算数・数学いずれにおいても、すべての領域の正答率が全国値を上回りました。特に、中学校の数学は、令和元年度に続いて約10ポイント以上、全国値の正答率を上回りました。

(2) 令和3年度 全国学力・学習状況調査



向上がみられる

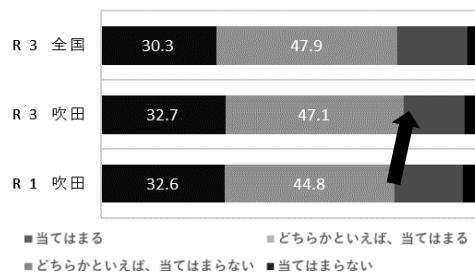


課題がみられる

児童・生徒質問紙

○課題解決に向けて自ら取り組んでいる

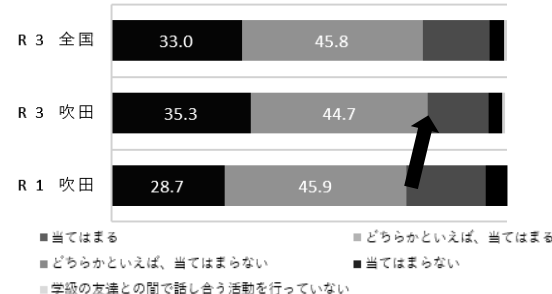
小学校



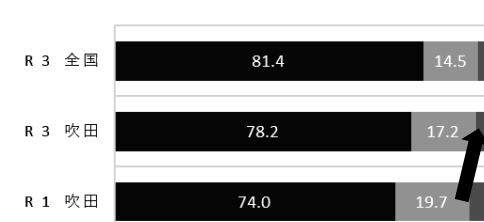
中学校



○話し合い活動により、考えの深まりや広がりがある



○いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う



「課題解決に向けて自ら取り組んでいる」では、肯定的回答が増加していることから主体的に学びに向かう姿が見られる。また、「話し合い活動」でも、肯定的回答が増加しており、他者につながることで学びが豊かになるを感じとっていることがうかがえる。今後は、この状況を活かし、子供に「問い」を持たせ、異なる考え方を交流する中で納得解を導き出す「協働的な学び」を意識した指導をさらに促進していく。

「いじめはいけないことだ」との認識を持っている児童・生徒は多いが、より一層意識を高めていくために、人権教育や道徳科の授業、いじめ予防授業等を充実させ、いじめを許さない心を醸成していく。

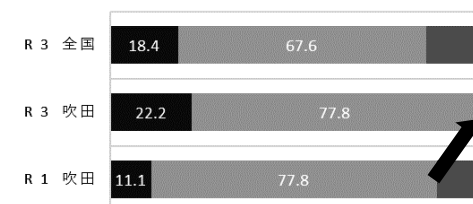
学校質問紙

○児童・生徒は課題解決に向けて取り組むことができている

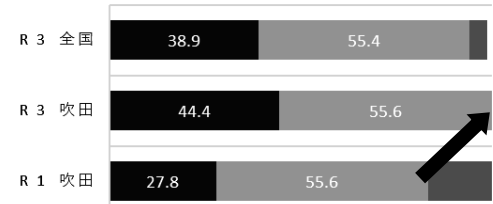
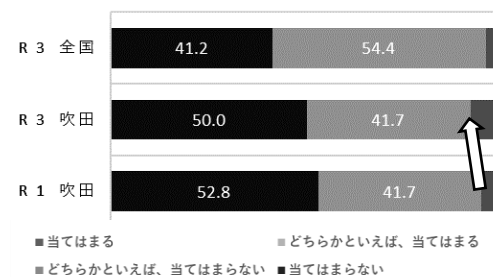
小学校



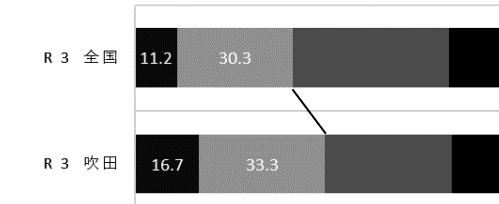
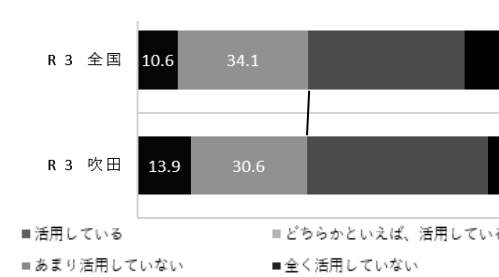
中学校



○学校全体として国語科以外でも言語活動に取り組んでいる



○教職員と生徒がやり取りする場面で、ICT等を活用している



「ICTの活用」については、中学校が全国値より高い数値となっているが、一人1台端末のよりよい利活用を研究し、授業等において、目的や場面に応じた効果的な活用をめざす。また、話し合い活動による学習の充実に向け、一人1台端末のさらなる活用を推進していく。

3. 吹田市結果より

令和3年度 全国学力・学習状況調査

吹田の子供のチカラを伸ばす！

令和3年度の本市の調査結果を分析し、吹田の強みや課題、吹田の子供たちにつけたいチカラをまとめました。

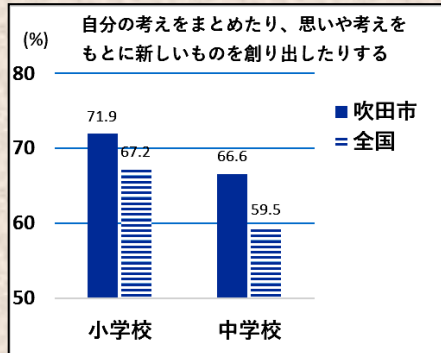
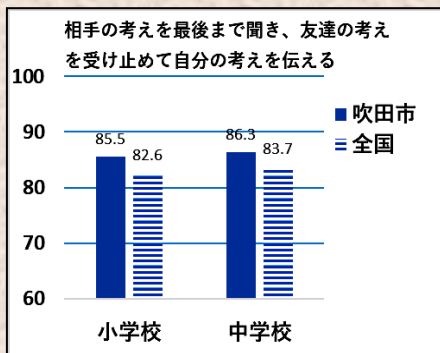


調査の概要

- ◇調査日 令和3年5月27日（木）
- ◇調査対象 小学校6年生・中学校3年生 の児童・生徒
- ◇調査内容 小学校：国語・算数
中学校：国語・数学
小学校・中学校：生活習慣や学習習慣等に関する質問紙調査

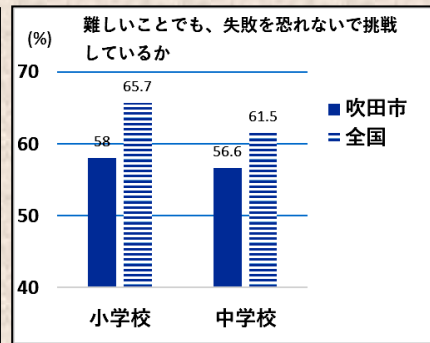
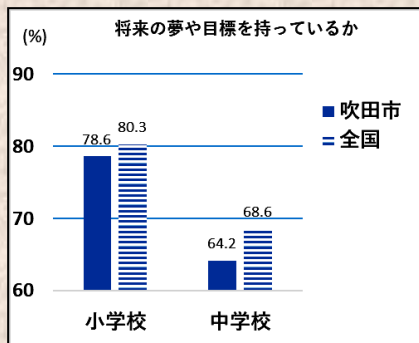
吹田の子供・吹田の教育の強み

相手の考えを聞いて受け止め、自分の考えを伝えたり、自分の考えをまとめ、思いや考えをもとに新しいものを創り出したりするなど、今求められている「協働的な学び」が、授業において大切にされている。



吹田の子供・吹田の教育の課題

将来の夢や目標を持つこと、失敗を恐れず困難なことに挑戦することなど、自分に自信を持ち、責任を持って前に向かって進む力に課題がある。

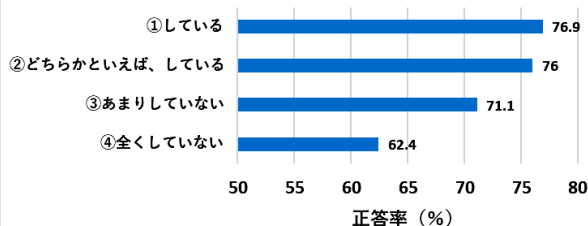


学習・生活習慣と学力（正答率）の関係



規則正しく生活するチカラ

「毎日、同じくらいの時刻に起きている」と
小学校算数の正答率(%)

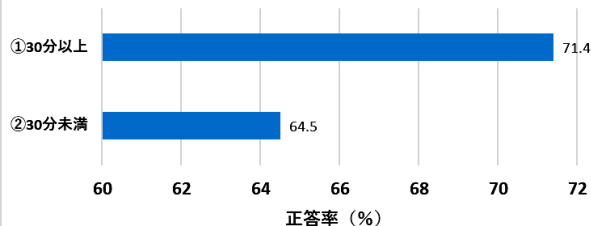


「毎日、同じくらいの時刻に起きている」と回答している児童・生徒のほうが、小・中学校いずれの教科においても、正答率が高い。

学校全体の共通理解のもと、児童・生徒が規則正しい生活が行えるよう指導するとともに、保護者に対しても本結果を踏まえ、様々な機会に啓発していく必要がある。

読書習慣のチカラ

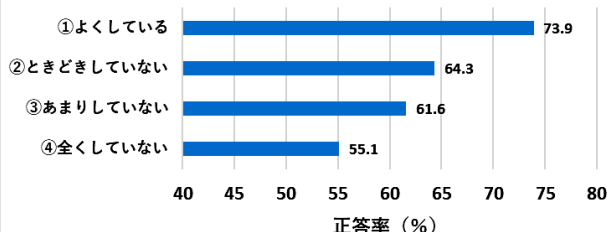
「1日当たりの読書時間」と
小学校国語の正答率(%)



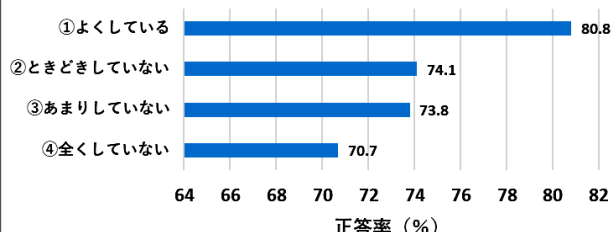
「読書を1日あたり30分以上する」と回答している児童・生徒のほうが、小・中学校いずれの教科においても、正答率が高い。しかし、本市中学校では1日あたり30分以上読書をしている生徒数の割合が、全国を下回っている。読書活動支援員を一層活用し、授業に関連のある図書や新着図書の紹介を行うなど、毎日行きたくなるような学校図書館づくりの推進が必要である。

計画的な家庭学習のチカラ

「家での計画的な自主学習をしているか」と
中学校数学の正答率(%)



「家での計画的な自主学習をしているか」と
小学校算数の正答率(%)



「自ら計画を立てて勉強をしている」と回答している児童・生徒のほうが、小・中学校いずれの教科においても、正答率が高い。また、学校外での学習を「全くしない」と回答している児童・生徒は、小・中学校いずれの教科においても、正答率が低い。

自主学習の習慣については、例えば一人1台端末を活用した学び方を学校で指導するなど、児童・生徒が自ら学習できる力を身に付けさせる必要がある。

4. 学力・学習状況の概要

1 教科に関する調査結果

(1) 各教科の概要

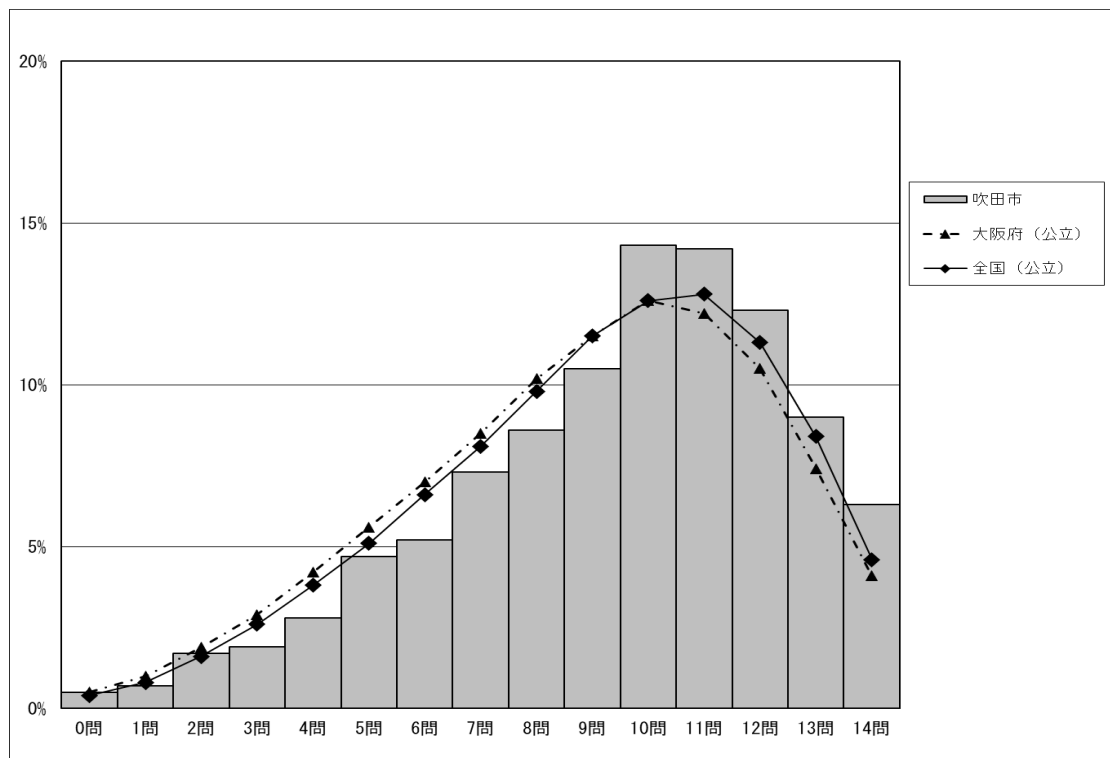
小学校 国語

<分類・区分別集計結果>

分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
				吹田市	大阪府（公立）	全国（公立）
全体			14	67	63	64.7
学習指導 要領の 内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	6	68.6	67.4	68.3
		(2) 情報の扱い方に関する事項	0			
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0			
	思考力、判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	83.5	76.7	77.8
		B 書くこと	2	62.2	57.3	60.7
		C 読むこと	3	51.9	45.2	47.2
評価の観点		知識・技能	6	68.6	67.4	68.3
		思考・判断・表現	8	66.3	60.0	62.1
		主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式		選択式	8	75.3	70.4	71.7
		短答式	3	71.2	69.7	70.6
		記述式	3	42.2	37.4	40.2

<正答数分布グラフ(横軸:正答数,縦軸:児童の割合)>

	平均正答数	平均正答率 (%)
吹田市	9.4 / 14	67
大阪府(公立)	8.8 / 14	63
全国(公立)	9.1 / 14	64.7



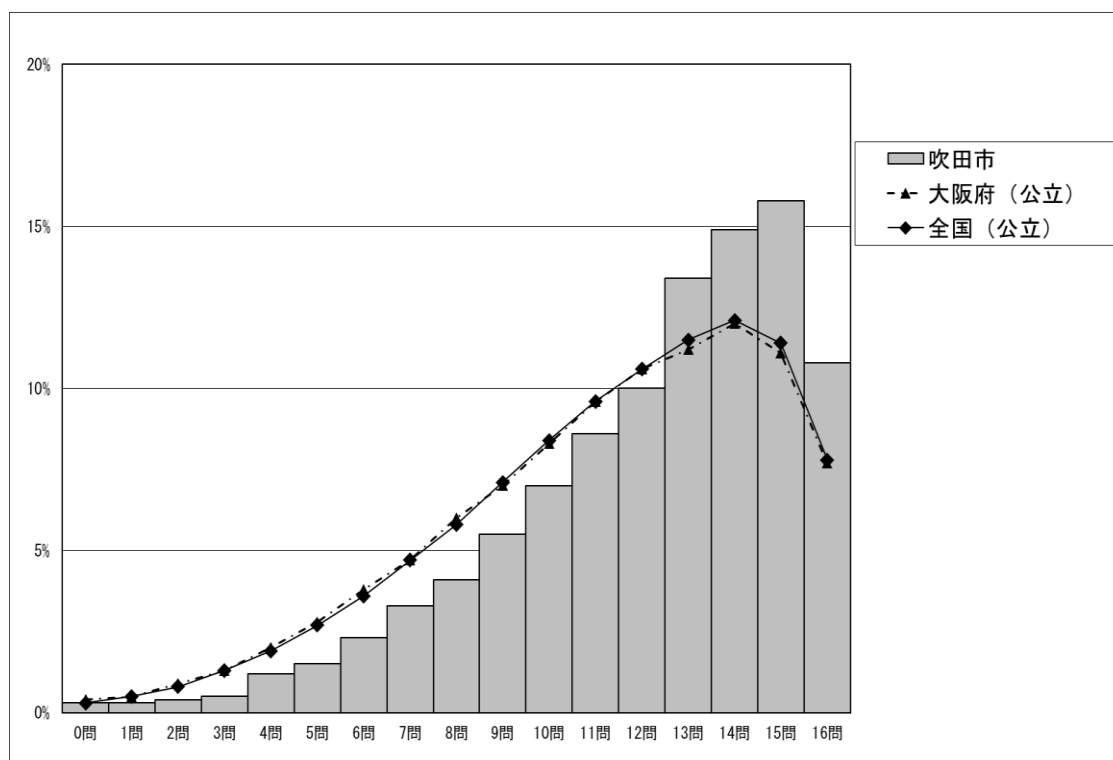
小学校 算数

<分類・区別集計結果>

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			吹田市	大阪府（公立）	全国（公立）
全体		16	76	70	70.2
学習指導要領の領域	A 数と計算	4	69.0	62.7	63.1
	B 図形	3	65.3	56.7	57.9
	C 測定	3	79.2	74.5	74.8
	C 変化と関係	3	79.9	75.7	75.9
	D データの活用	5	81.8	75.7	76.0
評価の観点	知識・技能	9	78.9	73.6	74.1
	思考・判断・表現	7	71.8	64.6	65.1
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	6	81.2	75.9	76.0
	短答式	6	80.2	74.8	75.8
	記述式	4	61.0	52.7	53.0

<正答数分布グラフ(横軸:正答数,縦軸:児童の割合)>

	平均正答数	平均正答率 (%)
吹田市	12.1 / 16	76
大阪府(公立)	11.2 / 16	70
全国(公立)	11.2 / 16	70.2

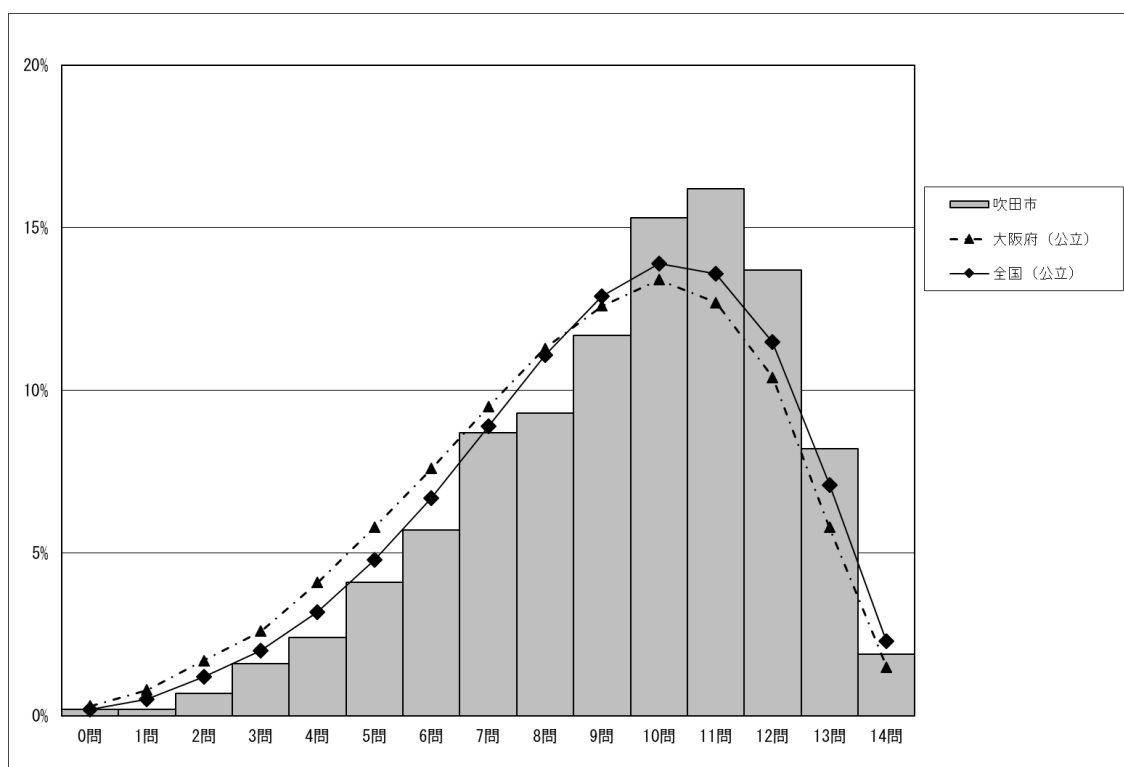


<分類・区分別集計結果>

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			吹田市	大阪府（公立）	全国（公立）
全体		14	67	62	64.6
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	81.0	76.2	79.8
	書くこと	3	59.3	54.1	57.1
	読むこと	4	51.4	45.4	48.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	4	78.3	73.8	75.1
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	4	56.8	51.5	56.0
	話す・聞く能力	3	81.0	76.2	79.8
	書く能力	3	59.3	54.1	57.1
	読む能力	4	51.4	45.4	48.5
	言語についての知識・理解・技能	4	78.3	73.8	75.1
問題形式	選択式	6	67.0	61.7	63.9
	短答式	4	77.7	73.0	74.4
	記述式	4	56.8	51.5	56.0

<正答数分布グラフ(横軸: 正答数, 縦軸: 生徒の割合)>

	平均正答数	平均正答率 (%)
吹田市	9.4 / 14	67
大阪府(公立)	8.7 / 14	62
全国(公立)	8.7 / 14	64.6



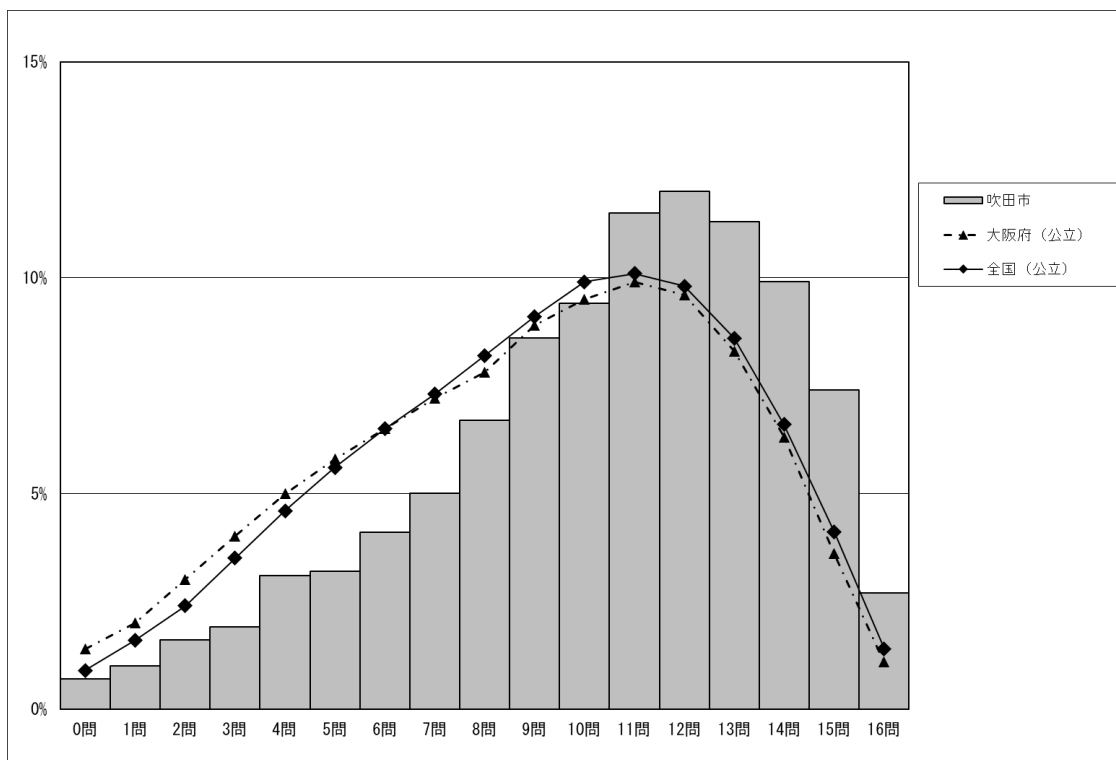
中学校 数学

<分類・区分別集計結果>

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			吹田市	大阪府（公立）	全国（公立）
全体		16	65	56	57.2
学習指導要領の領域	数と式	5	74.4	63.6	64.9
	図形	4	61.0	49.9	51.4
	関数	3	61.0	54.7	56.4
	資料の活用	4	58.3	51.7	53.8
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0			
	数学的な見方や考え方	7	50.2	39.6	41.1
	数学的な技能	3	85.4	76.7	77.7
	数量や図形などについての知識・理解	6	70.8	63.6	65.6
問題形式	選択式	2	57.4	50.7	52.4
	短答式	9	76.9	68.8	70.5
	記述式	5	45.1	33.6	35.0

<正答数分布グラフ(横軸:正答数,縦軸:生徒の割合)>

	平均正答数	平均正答率 (%)
吹田市	10.3 / 16	67
大阪府(公立)	8.9 / 16	56
全国(公立)	9.1 / 16	57.2



(2) 各教科問題別分析
【問題別分析 小学校 国語】

◇【思考力、判断力、表現力等】A 話すこと・聞くこと C 読むことの問題については、正答率は全国平均を上回りましたが、B 書くこと(設問3二)及び【知識及び技能】(1)言葉の特徴や使い方に関する事項(設問3三)において課題が見られた。

問題番号		学習指導要領の内容		正答率(%)			無解答率(%)			正答率(%)		無解答率(%)	
		知識・技能	思考力・判断力・表現力等	吹田市	大阪府(公立)	全国(公立)	吹田市	大阪府(公立)	全国(公立)	正答率全国差	判定	無回答率全国差	判定
1一	津田梅子の二つの業績を明確に伝えるために、【スピーチメモ】と【スピーチ】の練習で上野さんが話した構成の説明として適切なものを選択する		話すこと・聞くこと	83.8	76.6	77.5	0.2	0.3	0.3	6.3	◎	-0.1	
1二	津田梅子についての【スピーチ】の練習で、【資料②】と【資料③】を使った理由の説明として適切なものを選択する			81.0	73.5	74.9	0.4	0.5	0.4	6.1	◎	0	
1三	津田梅子についての【スピーチ】の練習の「-----」の部分で話す内容として適切なものを選択する。			85.8	80.0	81.0	0.3	0.4	0.4	4.8	○	-0.1	
2一	面ファスナーに関する【資料】の文章が、何について、どのように書かれているかの説明として適切なものを選択する		読むこと	84.2	77.2	77.6	0.5	0.5	0.4	6.6	◎	0.1	△
2二	面ファスナーに関する【資料】の文章の中の「より」と同じ使い方として適切なものを選択する	る使言事い業項方に特徴すや		91.2	87.5	87.5	0.4	0.4	0.3	3.7	○	0.1	△
2三	面ファスナーに関する【資料】を読み、メストラルは、何をヒントに、どのような仕組みの面ファスナーを作り出したのかをまとめて書く		読むこと	38.8	31.7	34.4	3.6	4.2	4.1	4.4	○	-0.5	
2四	面ファスナーに関する【資料】を読み、面ファスナーが、国際宇宙ステーションの中でどのように使われているのかをまとめて書く			32.7	26.8	29.7	5.2	5.8	5.5	3	○	-0.3	
3一	丸山さんの【文章の下書き】の構成についての説明として適切なものを選択する		書くこと	69.2	60.9	64.8	3.3	2.6	2.1	4.4	○	1.2	△
3二	丸山さんの【文章の下書き】の「-----」部を「西田さんの話」を用いて詳しく書き直す			55.2	53.7	56.6	10.4	10.1	9.6	-1.4	△	0.8	△
3三(1)ア	丸山さんの【文章の下書き】の中の「-----」部アを、漢字を使って書き直す。(ころがっている)		言葉の特徴や使い方に関する事項	80.4	76.9	78.3	9.9	9.3	8.8	2.1	○	1.1	△
3三(1)ウ	丸山さんの【文章の下書き】の中の「-----」部ウを、漢字を使って書き直す。(つみ重ね)			54.2	52.1	54.4	16.6	14.9	14.4	-0.2	△	2.2	△
3三(1)エ	丸山さんの【文章の下書き】の中の「-----」部エを、漢字を使って書き直す。(げんいん)			79.1	80.2	79.0	8.1	7.0	6.6	0.1		1.5	△
3三(2)イ	丸山さんの【文章の下書き】の中の「-----」部イで、~~~~~部「残されています」の主語として適切なものを選択する			63.1	63.7	67.0	7.0	4.7	3.8	-3.9	△	3.2	△
3三(2)オ	丸山さんの【文章の下書き】の中の「-----」部オで、~~~~~部「すぐに」がくわしくしている言葉として適切なものを選択する			43.8	44.1	43.6	7.6	5.0	4.1	0.2		3.5	△

正答率の判定記号について

- ◎ : 全国値に比べ+5%以上
○ : 全国値に比べ+2%以上+5%未満
無印: 全国値に比べ0%以上+2%未満
△ : 全国値に比べ-5%より大きく0%未満
× : 全国値に比べ-5%以下

無解答率の判定記号について

- ◎ : 全国値に比べ-5%以下
○ : 全国値に比べ-5.0%より大きく-2%未満
無印: 全国値に比べ-2.0%より大きく0%以下
△ : 全国値に比べ0%より大きく+5%未満
× : 全国値に比べ+5%以上

【小学校 国語 本市正答率67.0%(全国値64.7%)】

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」の学習指導要領の内容ごとの平均正答率を全国の結果と比較すると、全ての領域で上回っている。

→★ 課題に対する手立て等

《全国値を下回った設問から見える課題》

【思考力、判断力、表現力等】書くこと領域

【出題の趣旨】

目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する。

【設問3-2 正答率 吹田市 55.2%】

全 国 56.6% 大阪府 53.7%

【知識及び技能】言葉の特徴や使い方に関する事項

【出題の趣旨】目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する

【設問3-3(2)イ 正答率 吹田市 63.1%】

全 国 67.0% 大阪府 63.7%

【設問3-3(2)オ 正答率 吹田市 43.8%】

全 国 43.6% 大阪府 44.1%

目的や意図に応じて、資料から必要な文章や言葉を選び、より効果的に詳しく書き表すことが難しい。

→★自分の考えを明確にし、事実と感想、意見と区別して書くことを学ぶ。

★書く目的や意図に応じて詳しく書く必要がある場合や簡単に書いた方が効果的である場合があることについて学ぶ。

★文章のどこを詳しく、どこを簡単に書けば効果的か文章の構成や展開から考え実際に文章を書く

主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係を捉えることが難しい。

→★文の中での語句の役割や、語句相互の関係に気を付けて文がどのように組み立てられているのか理解しながら文章の内容を読み進めることから学ぶ。

★主語と述語との関係についての理解を深める。

★修飾語がどこに係るのかという修飾と被修飾との関係に気を付けて文の構成について考える。

(1・2年生)文の中における主語と述語との関係に気づくこと。

(3・4年生)主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。

(5・6年生)文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。

《正答率が5割以下の設問から見える課題》

【思考力、判断力、表現力等】読むこと領域

【出題の趣旨】目的に応じ文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける。

【設問2-3 正答率 吹田市 38.8%】

全 国 34.4% 大阪府 31.7%

【出題の趣旨】

目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する。

【設問2-4 正答率 吹田市 32.7%】

全 国 29.7% 大阪府 26.8%

文章中に用いられている図が文章のどの部分と結びつくのか明らかにし、必要な情報を見付け、条件として示されている字数で書くことが難しい。

→★文章の構造や内容を基に、必要な情報を見付け、文量などを考えて要約することを学ぶ。

★日常的に触れる文章においても、図表やグラフ、写真や挿絵などが文章のどの部分と結びつくのか考えながら読むことを習慣化する。

文章の中から必要な情報を取捨選択し、それを基に要約することが難しい。

→★文章の構成や展開を捉える必要がある。

★文章の中心となる語や文を見付け、文章全体を短くまとめる活動を行う。

★まずは「読む」目的を明確にし、必要な情報を見付ける活動を行う。

Pick up

【思考力、判断力、表現力等】読むこと領域

【出題の趣旨】目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する。

問題 相川さんは、【資料】を読み、面ファスナーが宇宙でも使われていることについてまとめています。面ファスナーは、国際宇宙ステーションの中でどのように使われていますか。次の条件に合わせて書きましょう。

〈条件〉(五十字以上、七十字以内)

- 面ファスナーのよさを取り上げて、国際宇宙ステーションの中での使われ方について書くこと。
- 【資料】から言葉や文を取り上げて書くこと。

面ファスナー

面ファスナーは、かさやくつなど、さまざまな製品の留め具として使われています。簡単にくっつけたり、はがしたりすることができ、とても便利な道具です。

面ファスナーは、一九四八年にスイスで起こったあるできごとがきっかけで開発されました。狩猟のため、愛犬をつれて山に登ったジョルジュ・デ・メストラルは、犬の毛につれてゴボウの実がくっついていくことに気がきました。不思議に思い、その実を持ち帰って顕微鏡でくわしく調べてみると、ゴボウの実の曲がったざざ状のトゲがおおわれていることがわかりました。そのトゲが犬の毛にからみついていたのです。このことをヒントにメストラルは研究を重ね、数年後、特殊な素材を使い、面ファスナーを作り出しました。

一九六〇年に、日本ではじめて面ファスナーの製造・販売が始まりました。しかし、そのよさや使い道はなかなか世の中に伝わりませんでした。広く知られるようになったきっかけは、一九六四年十月の東海道新幹線の開業でした。新幹線の座席のヘッドレストカバー(頭をあてがる布)の留め具として、面ファスナーが採用されたのです。新幹線の清掃作業の際には、短時間でヘッドレストカバーを交換する必要がありました。そのため、一つ一つ取り外さなければならぬボタンやボタンより留め外しの簡単な面ファスナーの方が、留め具として通っていたのです。誰もが注目する新幹線に使われたことで話題となり、その存在が日本中に知られるようになりました。

一九八〇年代には、私たちの身近にある製品でも使われるようになりました。財布やかばん、かさなどの家庭用品をはじめ、スポーツや血圧計の巻き付けバンドなどの医療用品にも広がっていました。布のように柔軟性があり、物や体の形にぴったり合わせることができ、面ファスナーが通っていたからです。中でも大流行したのは、面ファスナーを使った運動くつでした。ひもくつに比べ、手間をかけずに目的や好みに合わせてすぐあいを調節することができ、よさが支持されたのです。同時に、素材の開発も進められました。現在では水に強く熱にも強い素材で作られているものもあります。

また、しっかりとくっつき簡単にはずすことができる面ファスナーは、宇宙でも使われています。地球のまわりを回る国際宇宙ステーションの中には無重力状態のため、物がうかびます。そこで活躍しているのが面ファスナーです。国際宇宙ステーション内のかべや天井には、あらゆる場所に面ファスナーがつけられています。ベンチやスプーン、カメラやコンピュターなど、身の回りの全ての物が固定できるようになっているのです。

一人の気づきから誕生した面ファスナーは、人びとの要求に応える形で、活躍の場を広げてきました。身近な生活場面だけでなく、宇宙空間にまで広がり、さらなる便利さが追求されています。

面ファスナーの仕組み

はなれている状態
くっついている状態




国際宇宙ステーションとその内部

【正答例】面ファスナーはしっかりとくっつきかん単にはがせることから、物がうかぶ国際うちゅうステーションの中で、身の回りの全ての物の固定に使われている。(70字)

【解答のポイント】

国際宇宙ステーションの中での使われ方が書かれている部分を中心に読み、必要な情報を見付けて要約すること。

【教科書での該当ページ】

4年 国語 はばたき P.43

「世界にほこる和紙」

吹田市の子供たちの今後伸ばしたいところ

「文章の構成を理解すること、さらに目的に応じて文章を要約したり、いくつかの情報を関連付けたりして理解を深めること」

今後の指導の取組に生かすこと

- ・主語と述語の関係、修飾と被修飾の関係、文の書き出しと文末表現の関係等、文の構成に関して理解を図る。
- ・「序論—本論—結論」または、「頭括型・尾括型・双括型」など、文章全体の構成を捉え、要旨を把握することができるよう指導する。
- ・学校図書館を活用し、説明的な文章を読み、分かったことや考えたことを友達と共有する場をもち考えを広げる活動を行う。

保護者と共に取り組むことができること

◇図や表を用いて、あるテーマについて語り合ったり、本や新聞等を読み手、書き手の考えについて語り合ったりする時間をもつ。

(2) 各教科問題別分析

【問題別分析 中学校 国語】

◇言葉の特徴や使い方に関する事項を除く領域の設問について、正答率は全国平均を上回り、概ね良好な結果であったが、「読むこと」『3. 四』の設問に課題が見られた。

問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域等	正答率(%)			無解答率(%)			正答率(%)		無解答率(%)	
			吹田市	大阪府（公立）	全国（公立）	吹田市	大阪府（公立）	全国（公立）	正答率全国差	判定	無解答率全国差	判定
1一	話し合いでの司会の発言の役割について説明したものとして適切なものを選択する	話すこと・聞くこと	91.1	86.7	89.7	0.2	0.2	0.2	1.4		0	
1二	話し合いでの発言について説明したものとして適切なものを選択する		93.4	90.9	92.5	0.3	0.2	0.2	0.9		0.1	△
1三	参加者の誰がどのようなことについて発言するとよいかと、そのように考えた理由を書く		58.6	50.9	57.1	3.2	4.6	3.4	1.5		-0.2	
2一	意見文の下書きを直した意図として適切なものを選択する	書くこと	25.7	22.7	24.8	0.3	0.3	0.3	0.9		0	
2二	意見文の下書きの構成の工夫について、自分の考えを書く		75.2	70.5	74.5	9.1	12.0	8.5	0.7		0.6	△
3一	「呼吸をのみこんだ」の意味として適切なものを選択する	読むこと	48.8	40.5	43.7	0.3	0.3	0.4	5.1	◎	-0.1	
3二	「喝采してやる」と「とった」のそれぞれについて、誰の動作なのかを選択する		64.2	56.8	58.7	0.4	0.4	0.4	5.5	◎	0	
3三	「反対の結果を呈出した」について、このことが分かる「黒」の様子を文章の中から抜き出す		76.2	68.6	71.0	6.5	8.9	7.3	5.2	◎	-0.8	
3四	「吾輩」が「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしているかや、そのような接し方をどう思うかを書く		16.6	15.5	20.5	21.8	27.7	24.1	-3.9	△	-2.3	○
4一①	漢字を読む（拙ばして）	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	98.6	97.3	97.5	0.8	1.7	1.5	1.1		-0.7	
4一②	漢字を読む（詳細）		91.3	87.3	88.8	1.3	2.8	2.3	2.5	○	-1.0	
4二	「随時」の意味として適切なものを選択する		78.9	72.2	74.0	0.6	1.0	1.1	4.9	○	-0.5	
4三	「行く」を適切な敬語に書き直し、その敬語の種類として適切なものを選択する		44.6	38.6	40.3	1.4	1.6	1.7	4.3	○	-0.3	
4四	事前に確かめておきたいことについて相手に失礼のないように書く	書くこと	76.9	69.2	71.9	8.6	12.1	9.7	5.0	◎	-1.1	

正答率の判定記号について

- ◎ : 全国値に比べ+5%以上
 ○ : 全国値に比べ+2%以上+5%未満
 無印 : 全国値に比べ0%以上+2%未満
 △ : 全国値に比べ-5%より大きく0%未満
 × : 全国値に比べ-5%以下

無解答率の判定記号について

- ◎ : 全国値に比べ-5%以下
 ○ : 全国値に比べ-5.0%より大きく-2%未満
 無印 : 全国値に比べ-2.0%より大きく0%以下
 △ : 全国値に比べ0%より大きく+5%未満
 × : 全国値に比べ+5%以上

【中学校 国語 本市正答率67.0%(全国値64.6%)】
「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域ごとの平均正答率を全国の結果と比較すると、全ての領域で上回っている。

《正答率が全国値を下回っている設問から見える課題》

→★ 課題に対する手立て等

読むこと領域

【出題の趣旨】

文章に表れているものの見方や考え方を捉え、
自分の考えをもつ

Pick up

【設問3-四 正答率 吹田市 16.6%】
全 国 20.5% 大阪府 15.5%

無解答率が全ての質問項目の中で最も高い。
(21.8%)

登場人物の言動等から、文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつことが難しい。

→★文学的な文章を読み、登場人物の行動や会話、様子などを表している複数の叙述を結び付け、それらを基に性格や考え方等を判断しながら読み進める経験を重ねる。

《正答率が5割以下の設問から見える課題》

書くこと領域

【出題の趣旨】

書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、
段落相互の関係に注意して書く。

【設問2-一 正答率 吹田市 25.7%】
全 国 24.8% 大阪府 22.7%

段落相互の関係を見抜くことが難しい。

自分の考えを明確に伝えるための表現の効果や叙述の方法について考えることが難しい。

→★段落相互の関係に着目する等、文章全体の構成を捉えることができるよう指導する。

★読み手の立場に立ち、自分の考えを明確に伝えるためのより効果的な表現の工夫について考える視点から推敲するよう指導する。

読むこと領域

【出題の趣旨】

文脈の中における語句の意味を的確に捉え
理解する。

【設問3-一 正答率 吹田市 48.8%】
全 国 43.7% 大阪府 40.5%

「のみこむ」を「つかむ、理解する」という意味で捉えらず、「我慢する」という意味で捉えた解答が約35%。あるいは、「この呼吸」が何を指すのか理解できていないとも考えられる。

→★表記や語句の用法、叙述の仕方、表現の効果について、言い換えによる整合性がとれているか、目的や意図に応じた表現になっているかなどを文脈から確かめることについて指導する。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

【出題の趣旨】

相手や場に応じて敬語を適切に使う

【設問4-三 正答率 吹田市 44.6%】
全 国 38.6% 大阪府 40.3%

敬語を適切に使えるが種類を正しく解答できない、またはその逆で種類はわかるものの、適切な敬語に書き直すことができない解答が合わせて約30%ある。

→★敬語の基本となる尊敬語、謙譲語、丁寧語についてその働きとともに、理解できるよう指導する。

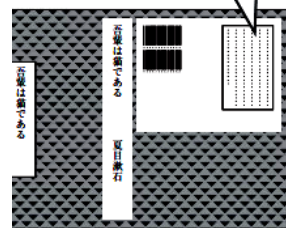
★日常生活の中で相手や場面に応じて敬語を適切に使い分ける等、敬語に関する個々の体験的な知識を整理する。

夏目漱石の作品『吾輩は猫である』の本のカバーに書かれている

【紹介】と【文章の一部】です。

【紹介】

中学教師の吾沙弥先生の家で暮らす猫「吾輩」から見れば、世の中は全くもって滑稽そのもの。周囲の様子を観察し、様々に評価する。ユーモアあふれる長編小説である本作は、漱石が三十八歳のときに発表して以来、多くの読者に愛されてきた。今なお、多くの人の共感を呼ぶ名作。



【文章の一部】

（「こゝまでのあらすじ」）吾沙弥先生の家で暮らす猫の「吾輩」は、ある日、家の裏にある黒い穴で黒猫の「黒」と出会う。「黒」は大きな体格で、黒い丸い目をして、黒い毛で覆われている。それ以来、「吾輩」は「黒」に傾くようになる。

ある日、例のごとく吾輩は黒い穴の中を覗きながら、いろいろな雑談をしていると、彼はいつもの自慢話をさも誇りにそうに語りだした。吾輩は聞かされて、「おめえは今までに鼠を何匹も食ったことがある」と。

「黒」は「鼠」に傾くようになる。

「実はどうも鼠と猫って、まだ知らない」と答える。

黒は、彼の鼻の先からびんとつぼつて出る長い舌をびりびりとあわせて、非常に笑った。元来黒は自慢をするだけにはこの足らないところがあつて、彼の舌を感心したようにのろのろとあつて、舌を吐き出して、はなはだ御しやすい猫である。吾輩は彼と近づくにつれて、この舌の明暗をのみこんだ。この場合にも、なまじいおれを弄弄しますます形勢を悪くするの鼠である。いつそのことに彼に自分の手柄話をしやべらして、お茶をにごすにはない、と、思案を定めた。そこでおとなしく、

「君などは年であるから、だいがんとつたろう」と、そそのかしてみた。

【中略】

鼠をみんな取りあげがって、交響へ持つてゆきがある。交響じや、だが一つたわわからねえから、そのたわわに五錢ずつくれるじゃねえか、うちの亭主なんか、おれのおかげで、四五十錢くらいつけていやがらせるに、ろくなものを食べたこともありやしない。おい、人間もものあてのいい泥棒だぜ。」

さうが無学の鼠ものくらの理屈はわかるが、さういふおとなすで背中の毛を逆だてている。吾輩は少々気味が悪くなったから、いかげんにその場をこまかし、うちへ帰った。

このときから吾輩は、けつして鼠をとるまいと決した。しかし、黒の子になつて鼠以外のところをあさつてあるくともしなかった。ごちそうを食うよりも眠りたいほうが気楽でいい。

- （注1） 夏目漱石が用いた筆名である。
- （注2） 御しやすい鼠よに傾くやうに。
- （注3） お茶をにごすにはない（こまかしの）がよい。
- （注4） 吾輩は、黒猫の穴の中に居たときで、予想通り「黒」が黒い猫だと思つて、といてつた。
- （注5） 偶然として犬だして犬の鼻をついて嗅いだ。
- （注6） 交響へ持つてゆきがある（交響）は、鼠の舌を感心し、舌を吐き出して、はなはだ御しやすい猫。

問題 【紹介】に線部「様々に評価する」とありますが、【文章の一部】では、「吾輩」は「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしていますか。また、あなたは、そのような「吾輩」の接し方をどう思いますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

- 条件1 【文章の一部】から、「吾輩」が「黒」を評価している表現を引用した上で、「吾輩」が「黒」にどのような接し方をしているのかを書くこと。
- 条件2 条件1のような「吾輩」の接し方について、あなたの考えを具体的に書くこと。

【正答例】

「はなはだ御しやすい猫である」と評価しており、「吾輩」は「黒」の機嫌をとるような接し方をしていることが分かる。私は、このような「吾輩」の接し方はとても賢いと思う。

【解答のポイント】

- ・「吾輩」が「黒」を評価している表現方法を引用する。
- ・「吾輩」の「黒」に対する接し方が分かるように書く。
- ・そのような「吾輩」の接し方についての自分の考えを具体的に書く。

【教科書での該当ページ】
現代の国語 1年 P.64
「空中ブランコ乗りのキキ」

吹田市の子供たちの今後伸ばしたいところ

「文章の構成や展開について理解し、書き手の見方や考え方について自分の考えをもつこと」

今後の指導の取組に生かすこと

- ◇文学的な文章において、場面の展開や登場人物の相互関係や心情の変化、行動や情景の描写などに注意しながら読み進める。
- ◇複数の場面を相互に結び付けたり、各場面と登場人物の心情の変化や行動、情景等の描写を結び付けたりすることにより、さらに読みを深める。
- ◇文章を読んで理解したことに基づき、自分の考えを確かなものにできるように指導する。

保護者と共に取り組むことができること

- ◇教材として取り上げる作品をきっかけに、その作者の別作品や、近代以降の他の作者の作品に触れる環境を整える。
- ◇本や文章で描かれる様々な立場や考え方を知ることから、日常の読書活動に親しめるようにする。
- ◇来客等があったときや初対面や目上の相手と接するような場面を、適切な敬語を使うために考える機会とする。

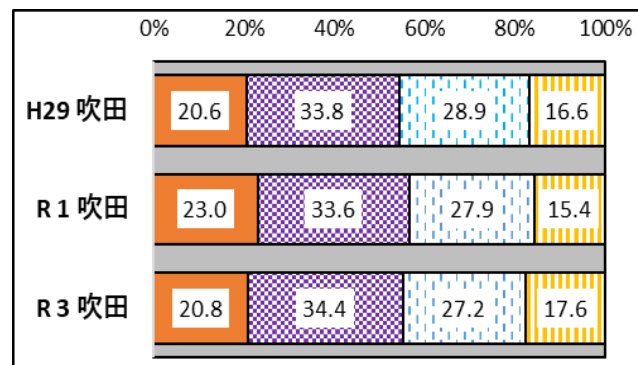
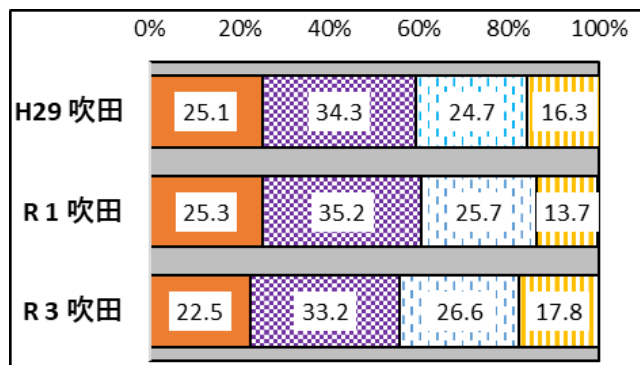
【国語】児童・生徒質問紙より

※平成30年度は、国語の設問がなかったため、比較対象として平成29年度を記載しています。

Q：国語の勉強は好きですか。

- ・肯定的回答率・・・小学生：55.7%（全国比－2.7%、前回比－4.8%、H29比－3.7%）
 中学生：55.2%（全国比－5.6%、前回比－1.4%、H29比＋0.8%）

〔小学校〕



H29 全国	25.5	35.0	25.4	14.0
R1 全国	26.5	37.7	24.3	11.5
R3 全国	22.7	35.7	27.2	14.3

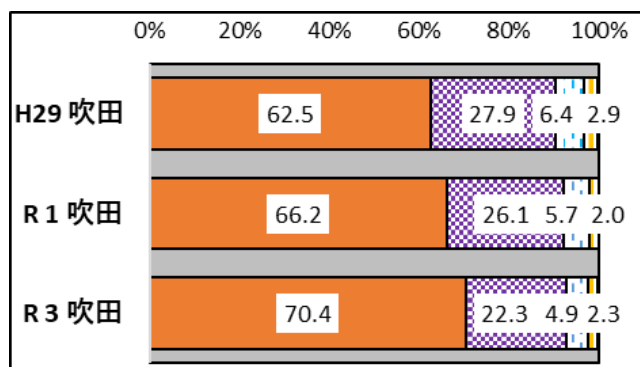
H29 全国	23.8	36.7	26.5	12.9
R1 全国	24.6	37.1	26.4	11.9
R3 全国	23.5	37.3	26.8	12.4



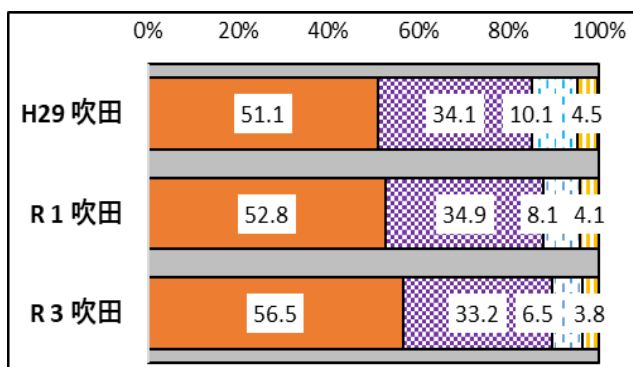
Q：国語の勉強は大切だと思いますか。

- ・肯定的回答率・・・小学生：92.7%（全国比＋0.5%、前回比＋1.4%、H29比＋3.3%）
 中学生：89.7%（全国比－1.9%、前回比＋2.0%、H29比＋4.5%）

〔小学校〕

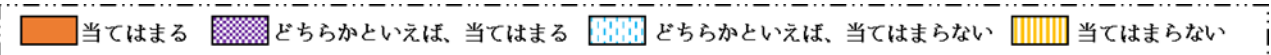


〔中学校〕



H29 全国	65.7	25.5	5.9	2.8
R1 全国	68.6	24.4	5.1	1.9
R3 全国	69.6	23.6	4.8	1.9

H29 全国	56.1	32.7	7.6	3.3
R1 全国	59.0	32.0	6.5	2.4
R3 全国	60.0	31.6	6.0	2.2

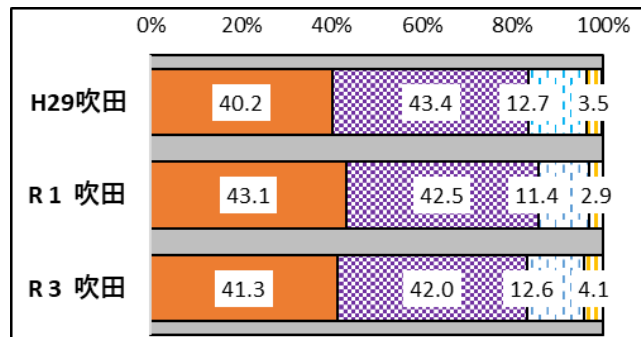


【国語】児童・生徒質問紙より

Q：国語の授業内容はよくわかりますか。

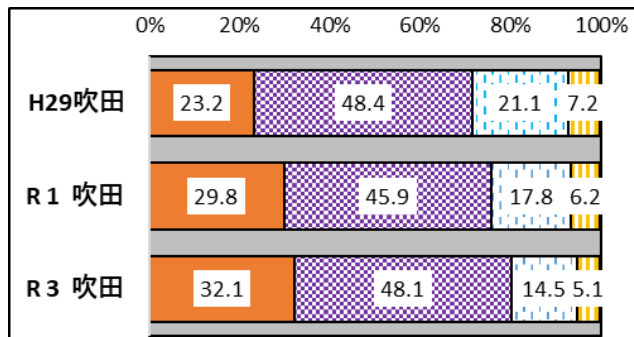
- ・肯定的回答率・・・小学生：83.3%（全国比－0.9%、前回比－2.3%、H29比－0.3%）
 中学生：80.2%（全国比＋0.1%、前回比＋4.5%、H29比＋8.6%）

〔小学校〕



H29 全国	38.9	43.3	13.3	4.3
R 1 全国	41.2	43.7	12.0	3.0
R 3 全国	39.5	44.7	12.5	3.2

〔中学校〕



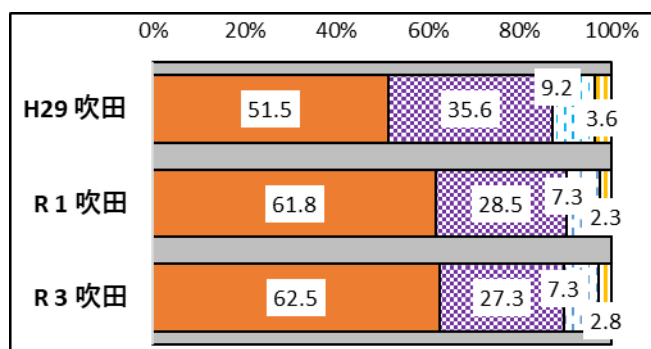
H29 全国	26.8	48.1	19.2	5.6
R 1 全国	28.4	49.2	17.8	4.0
R 3 全国	31.5	48.6	15.8	4.0

当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない

Q：国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。

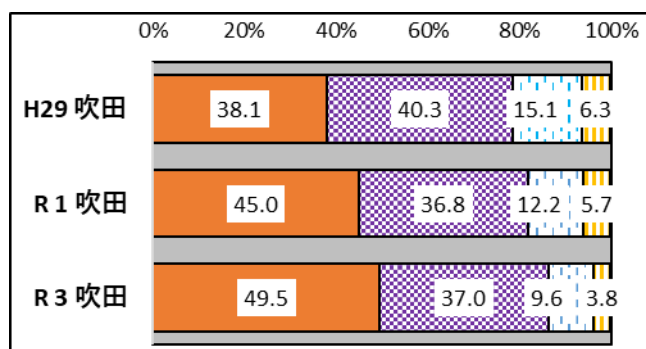
- ・肯定的回答率・・・小学生：89.8%（全国比－2.0%、前回比－0.5%、H29比＋2.7%）
 中学生：86.5%（全国比－2.2%、前回比＋4.7%、H29比＋8.1%）

〔小学校〕



H29 全国	55.7	32.2	8.7	3.1
R 1 全国	64.2	27.0	6.5	2.2
R 3 全国	65.2	26.6	6.0	2.0

〔中学校〕



H29 全国	44.7	38.6	12.3	4.1
R 1 全国	53.7	34.3	8.8	3.1
R 3 全国	53.7	35.0	8.4	2.7

当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない

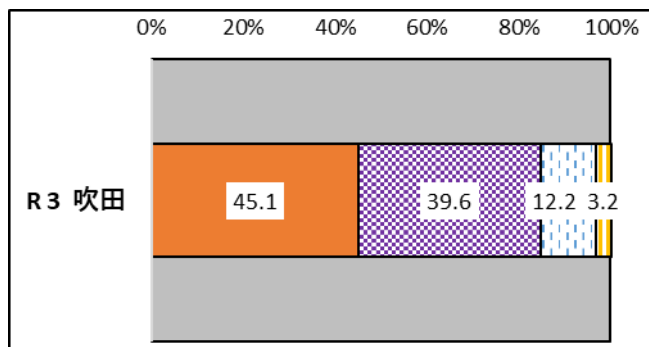
【国語】児童・生徒質問紙より

Q：国語の授業では、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりしていますか。

※この設問は今年度初めて設定されました。

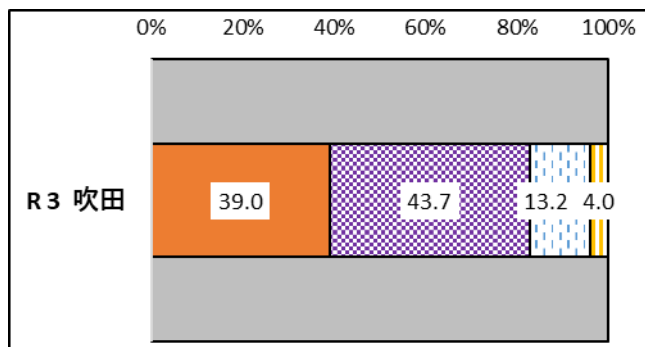
- ・肯定的回答率・・・小学生：84.7%（全国比＋2.5%）
 中学生：82.7%（全国比＋0.9%）

〔小学校〕



R 3 全国	38.3	43.9	14.7	3.0
--------	------	------	------	-----

〔中学校〕



R 3 全国	35.5	46.3	15.0	3.1
--------	------	------	------	-----

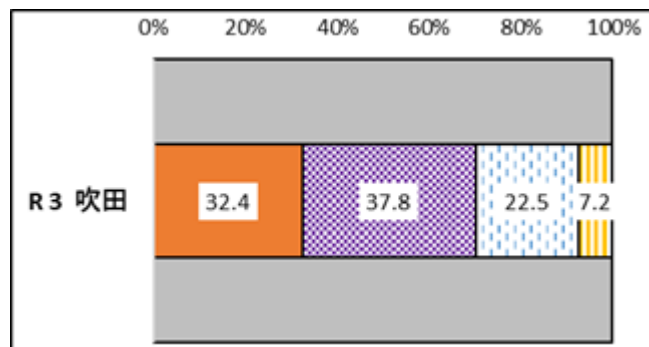
当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない

Q：国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしていますか。

※この設問は今年度初めて設定されました。

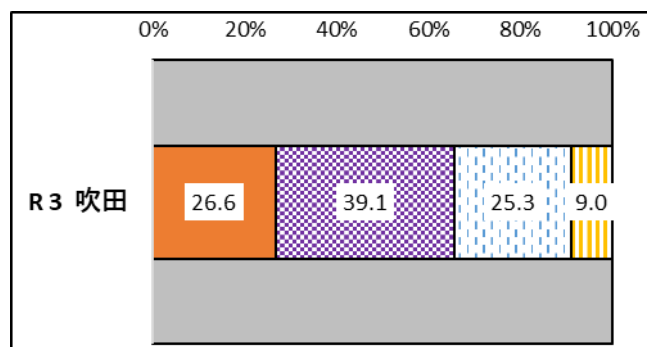
- ・肯定的回答率・・・小学生：70.2%（全国比＋6.4%）
 中学生：65.7%（全国比＋4.4%）

〔小学校〕



R 3 全国	25.4	38.4	28.0	8.0
--------	------	------	------	-----

〔中学校〕



R 3 全国	22.7	38.6	29.5	9.1
--------	------	------	------	-----

当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない

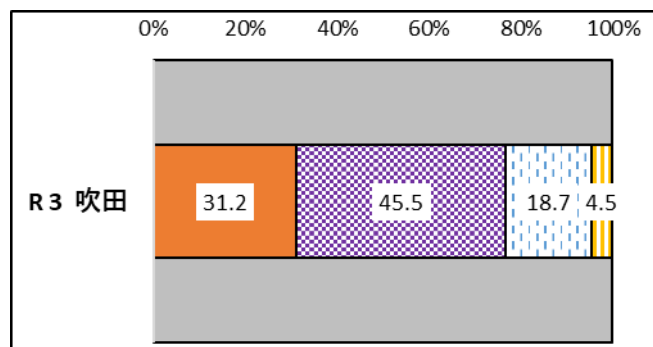
【国語】児童・生徒質問紙より

Q：国語の授業では、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いたりしていますか。

※この設問は今年度初めて設定されました。（小学校のみ）

・肯定的回答率・・・小学生：76.7%（全国比＋5.1%）

〔小学校〕



R 3 全国	26.3	45.3	23.2	5.0
--------	------	------	------	-----

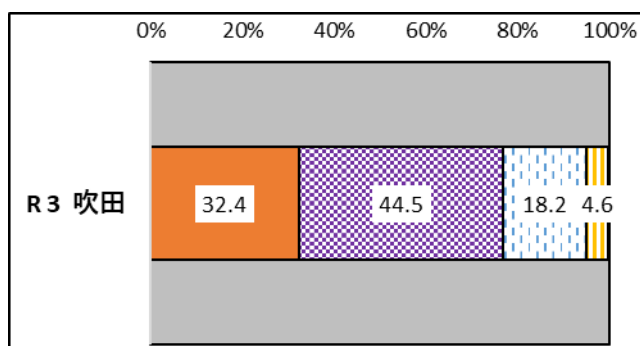
当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない

Q：国語の授業では、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり表現を工夫して書いたりしていますか。

※この設問は今年度初めて設定されました。（中学校のみ）

・肯定的回答率・・・中学生：76.9%（全国比＋2.3%）

〔中学校〕



R 3 全国	28.6	46.0	20.6	4.6
--------	------	------	------	-----

当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない

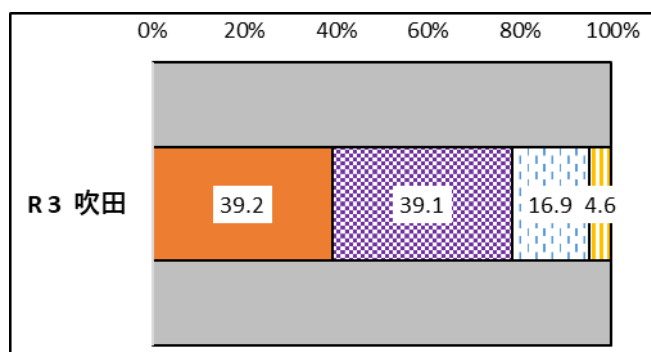
【国語】児童・生徒質問紙より

Q：国語の授業では、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり、自分の考えを広げたりしていますか。

※この設問は今年度初めて設定されました。（小学校のみ）

・肯定的回答率・・・小学生：78.3%（全国比+4.0%）

〔小学校〕



R 3 吹田	39.2	39.1	16.9	4.6
--------	------	------	------	-----

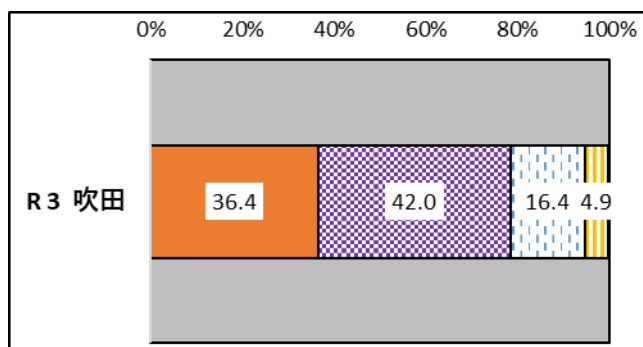
当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない

Q：国語の授業では、目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりしていますか。

※この設問は今年度初めて設定されました。（中学校のみ）

・肯定的回答率・・・中学生：78.4%（全国比+1.4%）

〔中学校〕



R 3 吹田	36.4	42.0	16.4	4.9
--------	------	------	------	-----

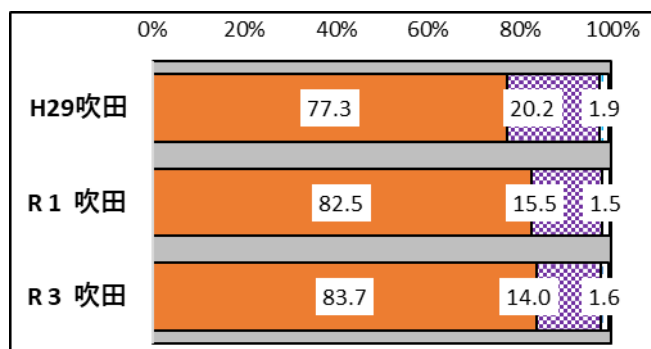
当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない

【国語】児童・生徒質問紙より

Q：今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、どのように解答しましたか。（最後まで解答を書こうと努力しましたか。）

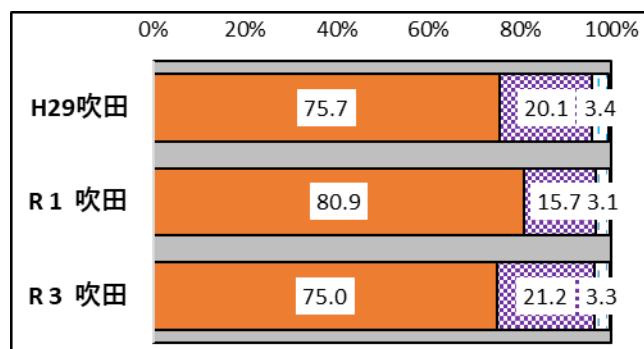
・肯定的回答率・・・小学生：83.7%（**全国比**+2.4%、**前回比**+1.2%、**H29比**+6.4%）
 中学生：75.0%（**全国比**+1.3%、**前回比**-3.9%、**H29比**-0.7%）

〔小学校〕

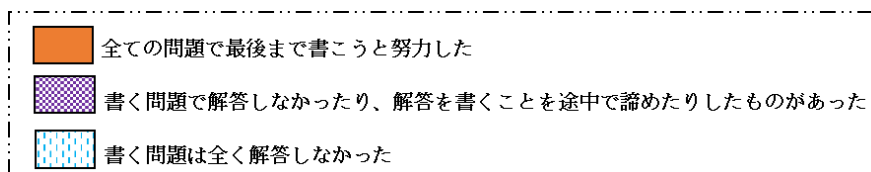


H29 全国	77.2	20.1	1.9
R 1 全国	80.4	17.4	1.7
R 3 全国	81.3	16.2	1.8

〔中学校〕



H29 全国	72.3	23.6	3.3
R 1 全国	79.8	17.2	2.7
R 3 全国	73.7	23.1	2.9



国語について

現状

◇児童・生徒質問紙では、今年度、新たに設定された国語の授業に関する項目の中で、以下の項目で、小・中学校ともに全国値を上回った。

- Q：目的に応じて、自分の考えを話したり質問したりすること
- Q：目的に応じて、表現を工夫して書いたりすること
- Q：目的に応じて文章を読み、自分の考えを広げたり深めたりすること

◇小・中学校ともに全国値を大きく下回った質問は、以下の2項目であった。

- Q：国語の勉強は好きですか。
- Q：国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。

改善・向上のために

- ◆子供が主体的に取り組める授業の実現のために、単元や教材など、内容や時間のまとまりの中で、見通しや振り返りの場面、対話の場面、子供が考える場面、教師が教える場面等の組み立てを考える。
- ◆一人1台端末を効果的に活用することで、自分の考えを発信したり、他者と協働したりすることの楽しさを味わわせる。

- ◆日常的に読書に親しむことで、知識や情報を得ることや自分の考えを広げること、読書が役立つことに気付かせる。

【問題別分析 小学校 算数】

◇すべての設問について、正答率は全国平均を上回り、良好な結果であった。

問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域	正答率(%)			無解答率(%)			正答率(%)		無解答率(%)	
			吹田市	大阪府(公立)	全国(公立)	吹田市	大阪府(公立)	全国(公立)	正答率全国差	判定	無回答率全国差	判定
1(1)	二つのコースの道のりの差の求め方と答えを書く	数測と計算	69.9	62.8	62.5	1.0	1.6	1.7	7.4	◎	-0.7	
1(2)	500mを歩くのに7分間かかることを基に、1000mを歩くのにかかる時間を書く	変化と関係	90.4	87.2	86.7	1.2	1.5	1.7	3.7	○	-0.5	
1(3)	㊦と㊧の二つの速さを求める式の意味について、正しいものを選ぶ		63.5	57.1	55.8	1.3	1.3	1.4	7.7	◎	-0.1	
1(4)	午後1時35分から50分後の時刻を書く	測定	91.6	88.8	89.2	0.5	0.7	0.7	2.4	○	-0.2	
1(5)	分速540mのバスが2700mを進むのにかかる時間を求める式を書く	変化と関係	85.9	82.7	85.1	1.2	1.4	1.5	0.8		-0.3	
2(1)	直角三角形の面積を求める式と答えを書く	図形	63.6	52.4	55.1	1.1	1.5	1.6	8.5	◎	-0.5	
2(2)	直角三角形を組み合わせた図形の面積について分かることを選ぶ	測図定形	76.0	71.8	72.5	1.0	1.0	1.0	3.5	○	0	
2(3)	二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを書く	図形	56.3	45.8	46.0	2.4	4.1	4.6	10.3	◎	-2.2	○
3(1)	6年生の本の貸し出し冊数を、棒グラフから読み取って選ぶ	データの活用	97.9	95.8	95.8	0.4	0.4	0.4	2.1	○	0	
3(2)	学年ごとの本の貸し出し冊数について、棒グラフから分かることを選ぶ		93.8	90.8	90.7	0.4	0.4	0.4	3.1	○	0	
3(3)	「114」は二次元の表のどこに入るかを選ぶ		76.8	68.2	67.5	1.4	1.6	1.7	9.3	◎	-0.3	
3(4)	帯グラフから、割合の違いが、一番大きい項目を選び、その項目と割合を書く		61.2	51.8	52.0	7.0	9.9	10.3	9.2	◎	-3.3	○
3(5)	5年生と6年生の読みたい本と、多くの5年生と6年生に読まれている本を調べるために、適切なデータを選ぶ		79.5	72.0	73.9	1.2	1.3	1.3	5.6	◎	-0.1	
4(1)	余りのある除法の商と余りを基に、23個のボールを6個ずつ箱に入れていくときに必要な箱の数を書く	数と計算	88.3	82.6	83.0	1.1	1.7	1.7	5.3	◎	-0.6	
4(2)	8人に4Lのジュースを等しく分けるときの一人分のジュースの量を求める式と答えを書く		61.2	55.1	55.5	1.2	1.8	2.0	5.7	◎	-0.8	
4(3)	30mを1としたときに12mが0.4に当たるわけを書く		56.7	50.3	51.5	6.2	9.7	10.3	5.2	◎	-4.1	○

正答率の判定記号について

- ◎ : 全国値に比べ+5%以上
- : 全国値に比べ+2%以上+5%未満
- 無印 : 全国値に比べ0%以上+2%未満
- △ : 全国値に比べ-5%より大きく0%未満
- × : 全国値に比べ-5%以下

無解答率の判定記号について

- ◎ : 全国値に比べ-5%以下
- : 全国値に比べ-5.0%より大きく-2%未満
- 無印 : 全国値に比べ-2.0%より大きく0%以下
- △ : 全国値に比べ0%より大きく+5%未満
- × : 全国値に比べ+5%以上

【小学校 算数 本市正答率76.0%(全国値70.2%)】

「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」の領域ごとの平均正答率を全国の結果と比較すると、全ての領域で上回っている。

→★ 課題に対する手立て等

《正答率が6割以下の設問から見える課題》

図形 領域

【出題の趣旨】

複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる。

【設問2(3) 正答率 吹田市 56.3%]
全 国 46.0% 大阪府 45.8%

平行四辺形の見積りの求め方が理解できていない児童が約1割おり、平行四辺形の見積りの求め方の定着に課題がある。また、高さを求めて終わってしまった児童が約1割いたことから、設問の意図を読み取る力に課題がある。

→★平行四辺形の見積りの求め方について、単に公式を覚えるのではなく、図形を構成する要素等に注目して見積りの求め方を式や言葉を用いて記述する課題を様々な場面で設定する。

→★国語とも連携し、読解力の定着を図る。

数と計算 領域

【出題の趣旨】

小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる。

【設問4(3) 正答率 吹田市 56.7%]
全 国 51.5% 大阪府 50.3%

Pick up

設問の意図を読み取り、正しい正答の条件を読み取り、記述することに課題がある。

本設問では、2つの条件を記述することで正答となるが、どちらか一方の記述しかない児童が15%程度いた。

→★問題文をよく読み、どのような解答の仕方が求められているのかを読み解く時間を持つ。

→★理由を記述するうえで、解答の道筋を論理的に書く機会を設ける。

《その他に課題の見られる設問》

図形 領域

【出題の趣旨】

三角形の見積りの求め方について理解しているかどうかをみる。

【設問2(1) 正答率 吹田市 63.6%]
全 国 55.1% 大阪府 52.4%

約1割の児童が示されている全ての辺を用いて立式しており、必要な情報を選び出すことができていない等、三角形の見積りの求め方を理解できていないことに課題がある。

→★基本図形の見積りの求め方を確認するとともに、様々な図形を通して確認させ、必要な情報を選び出す機会を設ける。

数と計算 領域

【出題の趣旨】小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる。

(3) 14 m のテープと 20 m のテープがあります。

こはるさんたちは、14 m は 20 m の何倍かについて考えています。

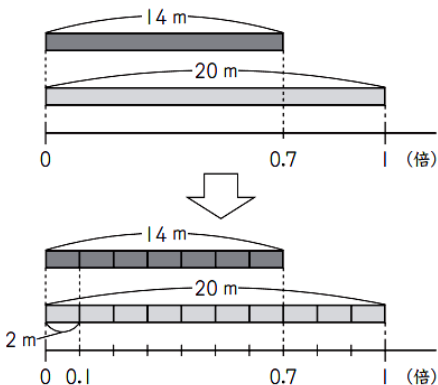


14 ÷ 20 = 0.7 で、0.7 倍です。0.7 倍というのは、20 m を 1 としたとき、14 m が 0.7 にあたることを表していましたね。



20 m を 1 としたとき、14 m が本当に 0.7 にあたるのかな。

れんとさんの話を聞いて、ゆうまさんは、20 m を 1 としたときに 14 m が 0.7 にあたるわけについて、20 m を 10 等分した 1 つ分の長さが 0.1 にあたることをもとにして考え、下のように図をかいて説明しました。



【ゆうまさんの説明】



20 m を 1 としたとき、0.1 にあたる長さは 2 m です。
14 m は、2 m の 7 つ分になるので、20 m を 1 としたときの 0.7 にあたります。

【教科書での該当ページ】

4年 みんなと学ぶ算数 下
P. 61

「計算のしかたを考えよう
くふうして小数をふくむ計算のしかたを考えよう」

12 m のテープと 30 m のテープもあります。

たくみさんたちは、12 m は 30 m の何倍かについて考えています。



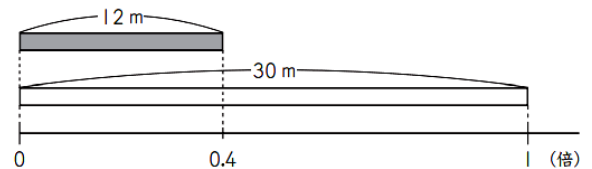
12 ÷ 30 = 0.4 で、0.4 倍です。



30 m を 1 としたとき、12 m が本当に 0.4 にあたるのかな。

30 m を 1 としたときに 12 m が 0.4 にあたるわけを、【ゆうまさんの説明】と同じように、0.1 にあたる長さがわかるようにして、言葉や数を使って書きましょう。

※ 必要ならば、下の図を使って考えてもかまいません。



【正答例】

30mを1としたとき、0.1 に当たる長さは 3mです。12mは3mの4つ分になるので、30mを1としたときの0.4にあたります。

【解答のポイント】

【ゆうまさんの説明】に書かれている内容をもとに以下の2つの条件を見出すこと。

①30mを1としたとき、0.1 に当たる長さを求めること

②12m が 3m のいくつ分になるのかを求めること

吹田市の子供たちの今後伸ばしたいところ

「日常生活や数学の学習における事象を、算数用語を用いて説明する力」

今後の指導の取組に生かすこと

- ◇単に計算の仕方を覚えて習熟に力を入れるだけでなく、図や数式、言葉などの決められた条件を選び出し、求め方を文に表す機会を増やす。
- ◇児童に求め方を説明させたり、他の児童の考えを代わりに説明させたりする中で、設問に求められる条件を見つける機会を積極的に設ける。

保護者と共に取り組むことができること

- ◇日常生活の中で、物事の様子や答えの求め方を自分の言葉で説明する機会を増やす。
- ◇説明することが苦手な児童にはヒントとなる言葉を示し、つなげて文章にする練習をする。
- ◇子供に説明させる問いかけを意識的に使う。
「どうやって解いたの?」「なぜそう考えたの?」「どうしたら求められるの?」「選んだ訳は?」

【問題別分析 中学校 数学】

◇すべての設問について、正答率は全国平均を上回り、良好な結果であった。

問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域	正答率(%)			無解答率(%)			正答率(%)		無解答率(%)	
			吹田市	大阪府(公立)	全国(公立)	吹田市	大阪府(公立)	全国(公立)	正答率全国差	判定	無解答率全国差	判定
1	$(5x+6y)-(3x-2y)$ を計算する	数と式	85.7	77.4	77.1	0.2	1.3	0.8	8.6	◎	-0.6	
2	数量の関係を一元一次方程式で表す		81.7	69.4	71.3	5.0	9.4	7.6	10.4	◎	-2.6	○
3	中心角 60° の扇形の弧の長さについて正しいものを選ぶ	図形	73.6	66.7	68.1	0.3	0.3	0.3	5.5	◎	0	
4	経過した時間と影の長さの関係を、「…は…の関数である」という形で表現する	関数	53.0	44.6	48.0	7.5	12.1	9.3	5	◎	-1.8	
5	反復横とびの記録の中央値を求める	資料の活用	88.9	83.2	84.5	0.5	1.4	1.0	4.4	○	-0.5	
6(1)	四角で囲んだ4つの数が12, 13, 17, 18のとき、それらの和が4の倍数になるかどうかを確かめる式を書く	数と式	87.5	81.6	83.9	2.6	4.9	3.5	3.6	○	-0.9	
6(2)	四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和はいつでも4の倍数になることの説明を完成する		76.1	60.9	61.8	11.0	18.7	15.4	14.3	◎	-4.4	○
6(3)	四角で4つの数を囲むとき、四角で囲んだ4つの数の和がどの位置にある2つの数の和の2倍であるかを説明する		41.2	28.8	30.3	23.3	32.8	29.9	10.9	◎	-6.6	◎
7(1)	与えられた表やグラフから、砂の重さが75gのときに、砂が落ちきるまでの時間が36.0秒であったことを表す点を求める	関数	94.6	92.2	93.5	1.6	2.9	2.0	1.1		-0.4	
7(2)	与えられた表やグラフを用いて、2分をはかるために必要な砂の重さを求める方法を説明する		35.5	27.3	27.7	19.9	27.4	24.7	7.8	◎	-4.8	○
8(1)	気温差が9℃以上12℃未満の階級の度数を書く	資料の活用	87.3	80.7	83.0	3.0	5.3	4.2	4.3	○	-1.2	
8(2)	2つの分布の傾向を比べるために相対度数を用いることの前提となっている考えを選ぶ		41.1	34.6	36.8	0.5	1.1	1.0	4.3	○	-0.5	
8(3)	「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する		15.8	8.2	11.1	28.0	36.3	32.2	4.7	○	-4.2	○
9(1)	四角形ABCEが平行四辺形になることを、平行四辺形になるための条件を用いて説明する	図形	57.0	42.9	44.3	2.7	4.1	3.6	12.7	◎	-0.9	
9(2)	錯角が等しくなることについて、根拠となる直線FEと直線BCの関係を、記号を用いて表す		75.0	62.8	64.3	9.1	16.1	14.2	10.7	◎	-5.1	◎
9(3)	$\angle ARG$ や $\angle ASG$ の大きさについていつでもいえることを書く		38.5	27.2	28.8	23.5	30.5	28.7	9.7	◎	-5.2	◎

正答率の判定記号について

- ◎ : 全国値に比べ+5%以上
- : 全国値に比べ+2%以上+5%未満
- 無印 : 全国値に比べ0%以上+2%未満
- △ : 全国値に比べ-5%より大きく0%未満
- × : 全国値に比べ-5%以下

無解答率の判定記号について

- ◎ : 全国値に比べ-5%以下
- : 全国値に比べ-5.0%より大きく-2%未満
- 無印 : 全国値に比べ-2.0%より大きく0%以下
- △ : 全国値に比べ0%より大きく+5%未満
- × : 全国値に比べ+5%以上

【中学校 数学 本市正答率 65.0%(全国値 57.2%)】

「数と式」「図形」「関数」「資料の整理」の領域ごとの平均正答率を全国の結果と比較すると、全ての領域で上回っている。

→★ 課題に対する手立て等

＜正答率が5割以下の設問から見える課題＞

数と式 領域

【出題の趣旨】

数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができる。

【設問6(3) 正答率 吹田市 41.2%
全 国 30.3% 大阪府 28.8%

資料の活用 領域

【出題の趣旨】

相対度数の必要性和意味を理解している。

【設問8(2) 正答率 吹田市 41.1%
全 国 36.8% 大阪府 34.6%

資料の整理 領域

【出題の趣旨】

データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。

【設問8(3) 正答率 吹田市 15.8%
全 国 11.1% 大阪府 8.2%

図形 領域

【出題の趣旨】

ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現することができる。

【設問9(3) 正答率 吹田市 38.5%
全 国 28.8% 大阪府 27.2%

⑥(3)

無回答が約2割であったことや、指定された文例で記述できていないことから、設問から問われている内容を見出す力や、設問の趣旨を読み取る力に課題がある。

→★文章の意図を読み取る能力を図るための活動に力を入れる必要がある。

⑧(2)

「階級ごとの度数」と解答している生徒が約3割と、度数について着目しているが、「相対度数」の定義についての理解に課題がある。

⑧(3)

「度数分布多角形」についての理解できておらず、グラフの特徴を捉えられず解答できなかった生徒がほとんどであり、事象に対して、データを分析し比較する等の活用に課題がある。

→★算数用語・数学用語については、言葉をおさえるだけでなく、定義や意味についても具体的な操作等を踏まえながらおさえる。

→★小学校では、6年生から資料の活用については学習するため、系統的にデータを分析し、考えたり判断したりする学習を重視する。

⑨(3)

条件によって図形の性質がどのように変化するかについて興味を持ち、それを数学的に表現することに課題がある。

→★様々な場面で自ら条件を設定し、考察できる機会を設定する。

＜その他に課題の見られる設問＞

関数領域

【出題の趣旨】

関数の意味を理解している。

【設問4 正答率 吹田市 53.0%
全 国 48.0% 大阪府 44.6%

④

「AはBの関数である」という関数の定義について、2つの変数A、Bの区別がついていない生徒が多く、関数の定義や意味の理解に課題がある。

→★小学校では、比例の表、式、グラフと対比させながら反比例を理解し、ともなって変わる2つの数についておさえる。

中学校では、小学校で学習した比例・反比例をもとにして、関数の意味をおさえる。

資料の整理領域

【出題の趣旨】データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。

【正答例】

2つの度数分布多角形が同じような形で、①6時間未満の度数分布多角形よりも6時間以上の度数分布多角形の方が右側にある。したがって、②日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある。

【補足】

正答の条件としては、次の①、②について記述しているもの。

- ①6時間未満の度数分布多角形よりも6時間以上の度数分布多角形の方が右側にあること。
- ②日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にあること。

※①のみの記述でも正答とする。

【解答のポイント】

「相対度数」や「度数分布多角形」等の数学用語について、定義や意味の理解が必要であるとともに、度数分布多角形の形状からデータの傾向を読み取る力が必要である。

また、理由などを説明する設問では、問題の意図を正しく読み解き、問われている内容にあった結論を、数学用語を用いて書くことができる力も必要である。

【教科書での該当ページ】

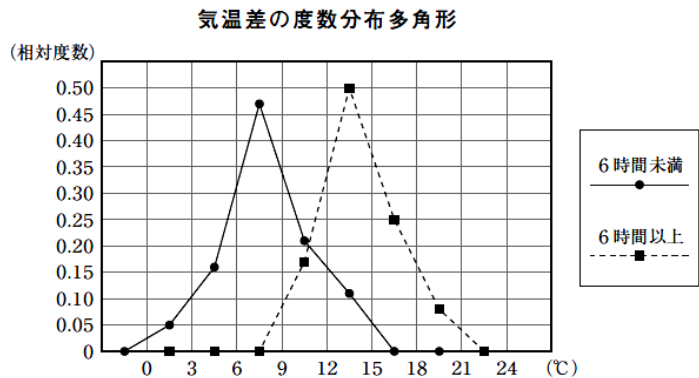
1年 中学数学①

P. 262

「レポートを書こう」

- 8 桃花さんは、5月にA市のキャンプ場に行くことになりました。キャンプの準備をするために、キャンプ場の過ごしやすさについて、気候に着目し、A市の昨年5月の最高気温、最低気温、日照時間、最大瞬間風速、降水量をインターネットで調べました。さらに、調べた最高気温から最低気温をひいて気温差を求め、下の表のようにまとめました。

- (3) 桃花さんは、前ページの気温差の度数分布表をもとに、横軸を気温差、縦軸を相対度数として度数分布多角形(度数折れ線)に表しました。



気温差の度数分布多角形から、「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、気温差の度数分布多角形の2つの度数分布多角形の特徴を比較して説明しなさい。

吹田市の子供たちの今後伸ばしたいところ

「日常生活や数学の学習における事象を、数学用語を用いて説明する力」

今後の指導の取組に生かすこと

- ◇各単元において、数学用語の定義や意味を理解させ、既習事項とも関連させながら数学用語を用いて単元内容をまとめる授業を行う。
- ◇具体的な文章を、図や表を用いて、数式に変化させる活動を積極的に授業に取り入れる。
- ◇日常生活における事象を、生徒自身が数学的に分析し、説明する活動を増やす。

保護者と共に取り組むことができること

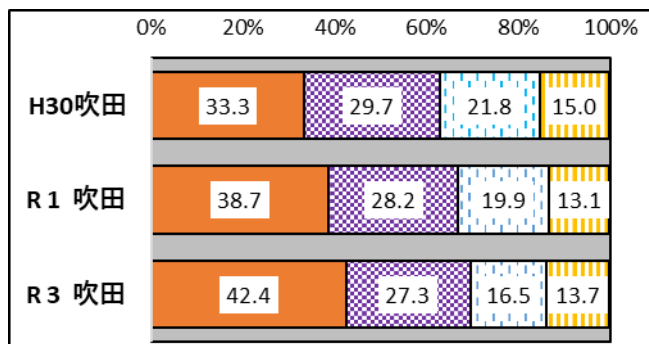
- ◇数学の学習内容についての質問や、ニュースや新聞で取り上げられている数学に関係する話題を紹介するなど、数学に触れ、子供たちが興味を持つ機会を増やす。
- ◇家庭学習を行う習慣をつけ、学校などの宿題や課題を、保護者が一緒になって取り組むことができる機会を設ける。

【算数・数学】児童・生徒質問紙より

Q：算数・数学の勉強は好きですか。

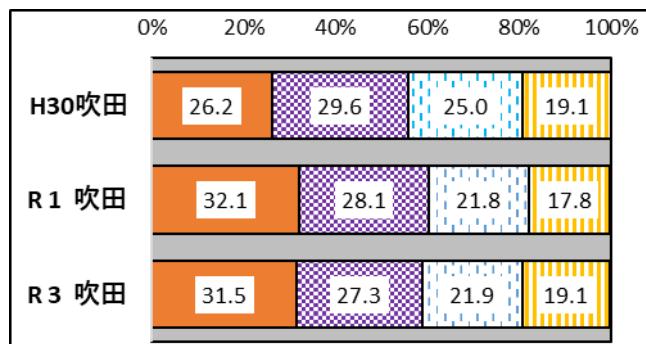
- ・肯定的回答率・・・小学生：69.7%（全国比+1.9%、前回比+2.8%、H30比+6.7%）
 中学生：58.8%（全国比-0.3%、前回比-1.4%、H30比+3.0%）

〔小学校〕



H30 全国	33.9	30.1	21.7	14.2
R 1 全国	40.6	28.0	18.7	12.7
R 3 全国	40.5	27.3	18.2	13.9

〔中学校〕



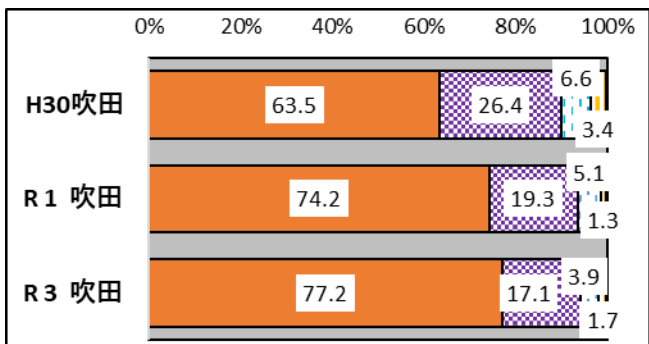
H30 全国	25.7	28.2	26.6	19.5
R 1 全国	30.7	27.2	23.9	18.1
R 3 全国	31.2	27.9	23.3	17.5

当てはまる どちらかといえば、当てはまる どちらかといえば、当てはまらない 当てはまらない

Q：算数・数学の勉強は大切だと思いますか。

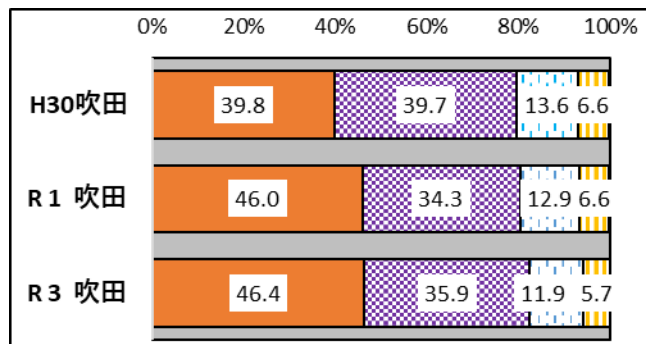
- ・肯定的回答率・・・小学生：94.3%（全国比+0.5%、前回比+0.8%、H30比+4.4%）
 中学生：82.3%（全国比-1.8%、前回比+2.0%、H30比+2.8%）

〔小学校〕



H30 全国	67.3	24.8	5.5	2.3
R 1 全国	75.6	24.8	5.5	2.3
R 3 全国	76.2	17.6	4.2	1.9

〔中学校〕



H30 全国	45.9	37.7	11.6	4.7
R 1 全国	49.8	34.4	11.2	4.5
R 3 全国	49.3	34.8	11.4	4.3

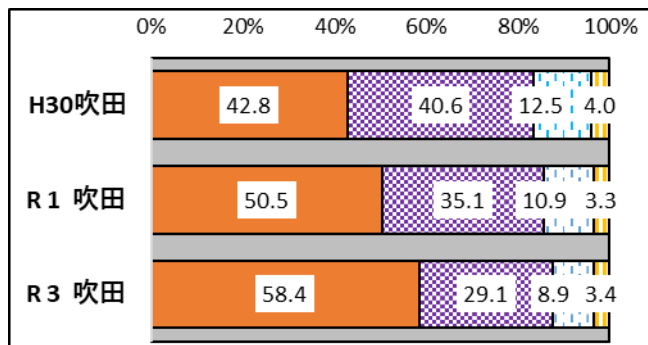
当てはまる どちらかといえば、当てはまる どちらかといえば、当てはまらない 当てはまらない

【算数・数学】児童・生徒質問紙より

Q：算数・数学の授業の内容はよく分かりますか。

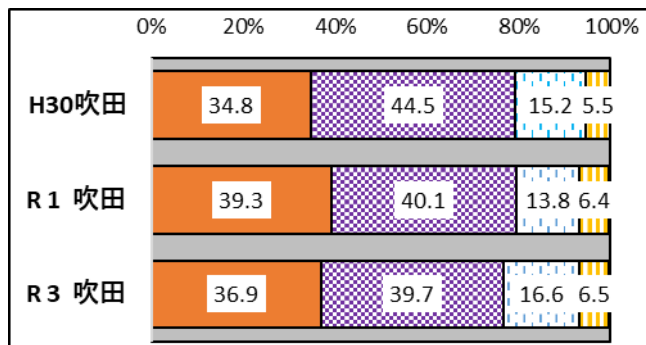
・肯定的回答率・・・小学生：87.5%（全国比+2.9%、前回比+1.9%、H30比+4.1%）
 中学生：76.6%（全国比+2.0%、前回比-2.8%、H30比-2.7%）

〔小学校〕



H30 全国	42.1	41.3	12.8	3.7
R 1 全国	49.3	34.2	12.4	4.1
R 3 全国	51.6	33.0	11.4	3.9

〔中学校〕



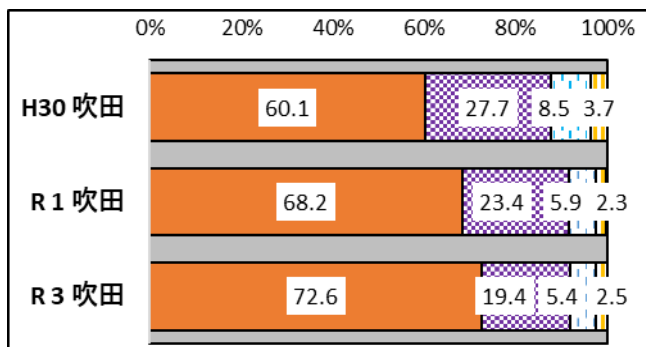
H30 全国	28.2	42.8	21.4	7.4
R 1 全国	34.8	39.1	18.6	7.3
R 3 全国	35.6	39.0	18.3	6.9

当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない

Q：算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。

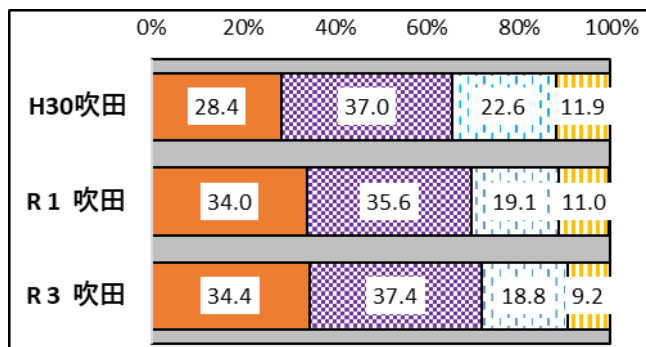
・肯定的回答率・・・小学生：92.0%（全国比-0.6%、前回比+0.4%、H30比+4.2%）
 中学生：71.8%（全国比-2.8%、前回比+2.2%、H30比+6.4%）

〔小学校〕



H30 全国	65.5	24.8	7.0	2.6
R 1 全国	72.3	20.2	5.4	2.0
R 3 全国	72.8	19.8	5.3	2.0

〔中学校〕



H30 全国	34.9	38.0	18.8	8.2
R 1 全国	40.3	35.9	16.5	7.1
R 3 全国	37.8	36.8	18.1	7.1

当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない

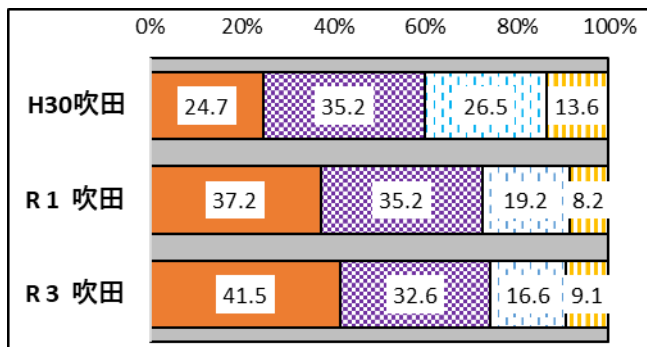
【算数】児童・生徒質問紙より

Q：算数・数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか。

この設問は、中学校では今年度初めて設定されました。

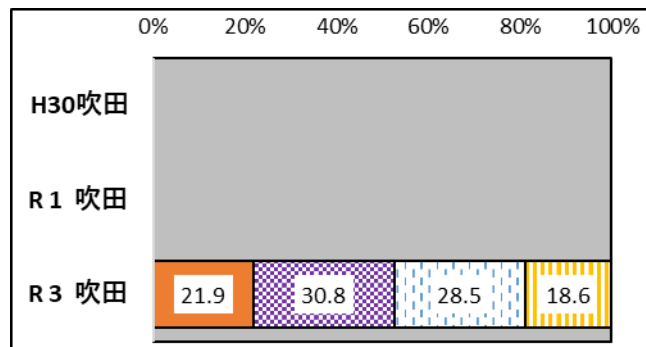
・肯定的回答率・・・小学生：74.1%（全国比+0.2%、前回比+1.7%、H30比+14.2%）
中学生：52.7%（全国比+2.1%）

〔小学校〕



H30 全国	28.5	35.9	24.6	10.9
R 1 全国	41.4	35.1	17.3	6.2
R 3 全国	39.3	34.6	18.4	7.6

〔中学校〕



R 3 全国	19.7	30.9	31.9	17.4
--------	------	------	------	------

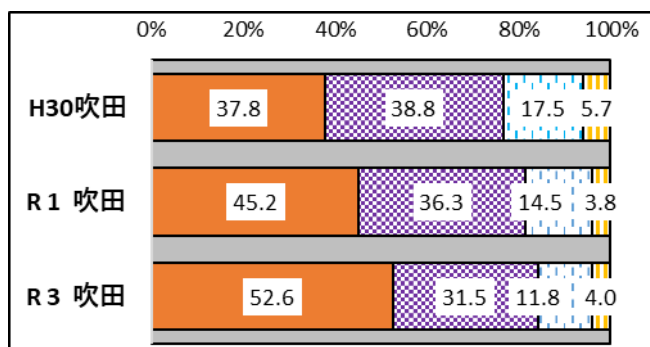
当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない

Q：算数・数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか。

この設問は、中学校では今年度初めて設定されました。

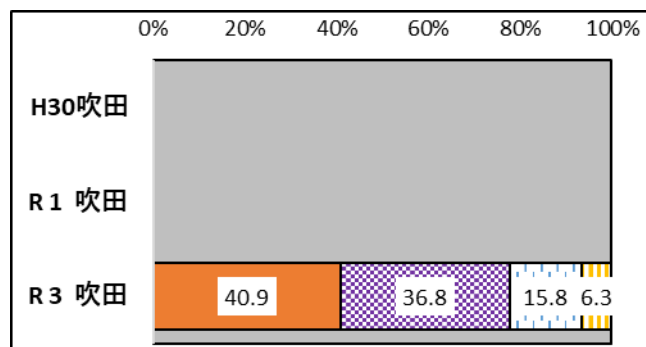
・肯定的回答率・・・小学生：84.1%（全国比+1.4%、前回比+2.6%、H30比+7.5%）
中学生：77.7%（全国比+1.9%）

〔小学校〕



H30 全国	39.7	38.7	16.4	5.0
R 1 全国	46.3	35.7	14.0	3.9
R 3 全国	49.4	33.3	13.3	4.0

〔中学校〕



R 3 全国	38.3	37.5	18.1	6.0
--------	------	------	------	-----

当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない

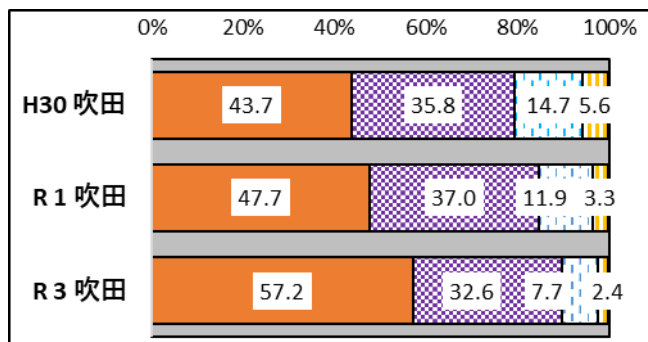
【算数】児童・生徒質問紙より

Q：算数・数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか。

この設問は、中学校では今年度初めて設定されました。

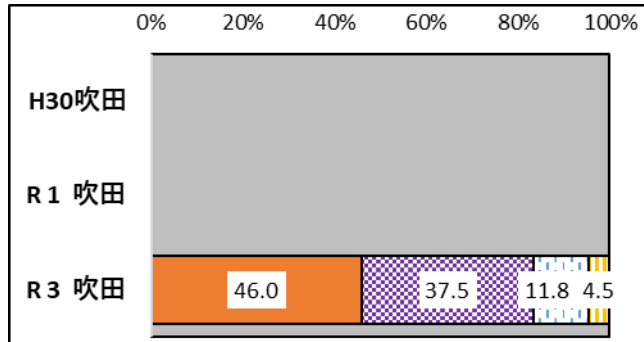
・肯定的回答率・・・小学生：89.8%（全国比+0.8%、前回比+5.1%、H30比+10.3%）
中学生：83.5%（全国比±0）

〔小学校〕



H30 吹田	43.7	36.7	14.9	4.5
R1 吹田	47.7	37.0	11.9	3.3
R3 吹田	57.2	32.6	7.7	2.4
H30 全国	43.7	36.7	14.9	4.5
R1 全国	48.4	35.6	12.7	3.2
R3 全国	54.0	35.0	8.7	2.2

〔中学校〕



R3 吹田	46.0	37.5	11.8	4.5
R3 全国	45.6	37.9	12.1	4.1

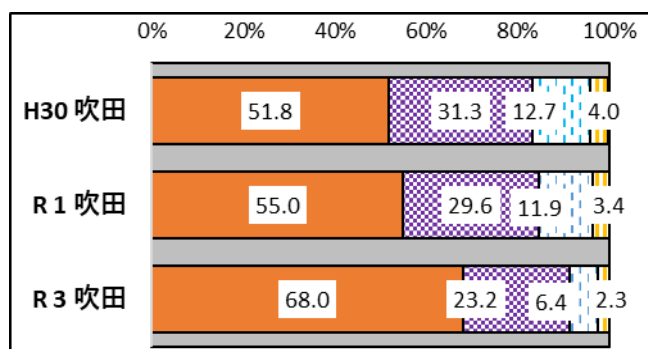
そうしている どちらかといえば、そうしている どちらかといえば、そうしていない そうしていない

Q：算数・数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか。

この設問は、中学校では今年度初めて設定されました。

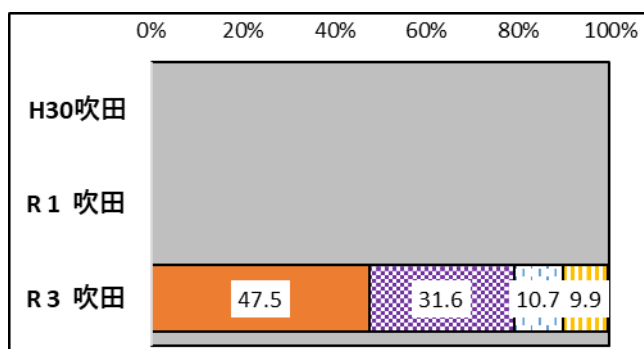
・肯定的回答率・・・小学生：91.2%（全国比-0.7%、前回比+6.6%、H30比+8.1%）
中学生：79.1%（全国比-7.5%）

〔小学校〕



H30 吹田	51.8	31.3	12.7	4.0
R1 吹田	55.0	29.6	11.9	3.4
R3 吹田	68.0	23.2	6.4	2.3
H30 全国	56.8	29.0	10.5	3.5
R1 全国	57.5	29.5	10.1	2.8
R3 全国	66.0	25.9	6.3	1.6

〔中学校〕



R3 吹田	47.5	31.6	10.7	9.9
R3 全国	58.0	28.6	8.6	4.6

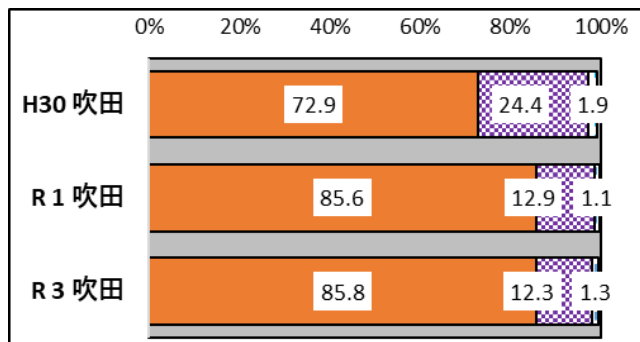
書いている どちらかといえば、書いている どちらかといえば、書いていない 書いていない

【算数・数学】児童・生徒質問紙より

Q：今回の算数・数学の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありましたが、どのように解答しましたか。

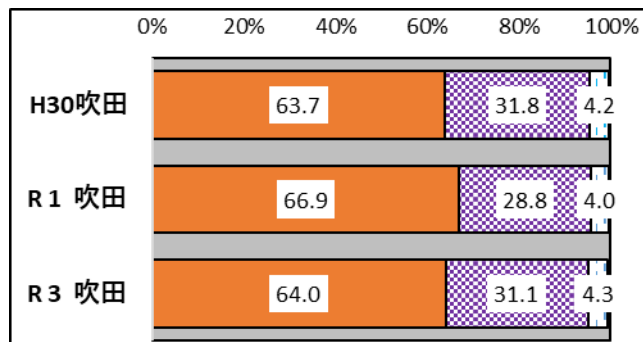
・肯定的回答率・・・小学生：85.8%（全国比+5.9%、前回比+0.2%、H30比+12.9%）
中学生：64.0%（全国比+6.2%、前回比-2.9%、H30比-0.3%）

〔小学校〕

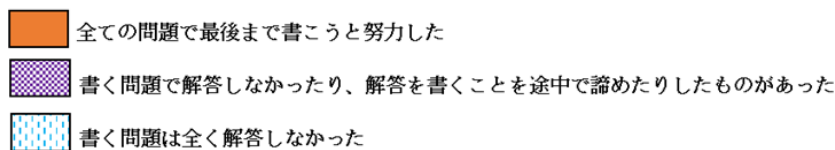


H30 全国	70.6	26.9	1.8
R1 全国	80.7	17.6	1.3
R3 全国	79.9	17.9	1.5

〔中学校〕



H30 全国	55.5	39.6	4.7
R1 全国	60.8	34.7	4.2
R3 全国	57.8	36.6	5.2



算数・数学について

現状

◇肯定的回答をした児童・生徒の割合は、小学校から中学校までの3年間で減少する傾向があり、年齢が上がるにつれて数学に対する苦手意識を持つようになっている。

◇小・中学校ともに全国値を下回った質問は、以下の2項目であった。

Q：授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。

Q：算数・数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか。

改善・向上のために

◆知識や技能を単に教え活用させるのではなく、日常生活や社会の事象から算数・数学の考えを導く機会や、学んだことを、日常生活や社会の事象をもとにして活用・意味づけする機会を積極的に設けることで、算数・数学への興味関心を高めていく。

◆1つ目の質問については、上の課題とも重なる部分があり、日常生活や社会の事象と関連させた授業を展開していく。
2つ目の質問については、日常的な授業の中で、問いに対する自分の考えや、解答に行きつくまでの思考の流れをノートに整理し、他者と深める機会を積極的に設けていく。

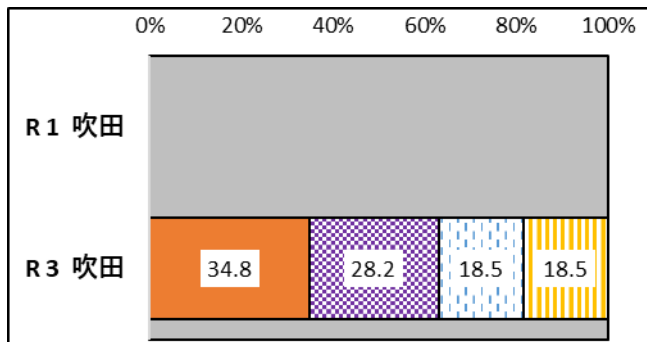
【英語】児童・生徒質問紙より

Q：英語の勉強は好きですか。

※この設問は、小学校では、今年度初めて設問に加わりました。

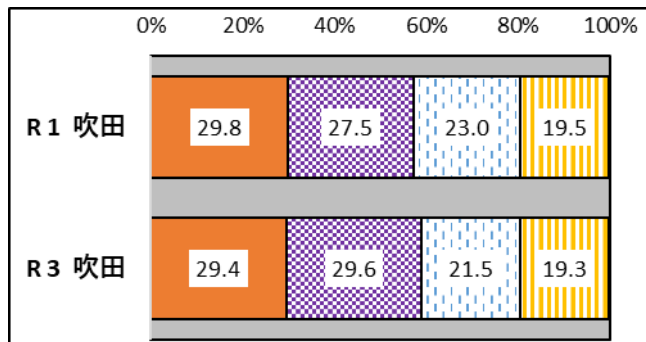
- ・肯定的回答率・・・小学生：63.0%（全国比－5.3%）
 中学生：59.0%（全国比＋0.7% 前回比＋1.7%）

〔小学校〕

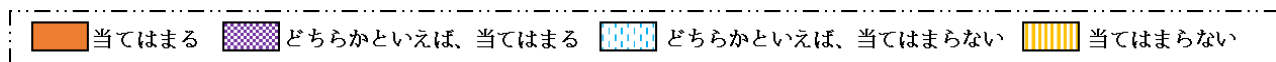


R 1 全国				
R 3 全国	38.2	30.1	18.8	12.8

〔中学校〕



R 1 全国	29.0	27.0	24.1	19.8
R 3 全国	28.7	28.0	23.7	19.4

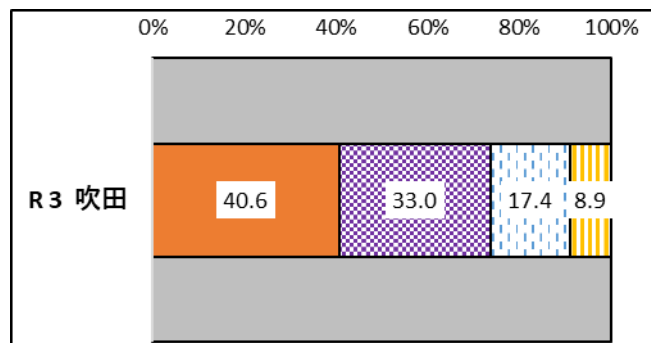


Q：5年生（1、2年生）までに受けた授業では、英語で話したり書いたりして、自分自身の考えや気持ちを伝えあうことができていましたか。

※この設問は、今年度初めて設問に加わりました。

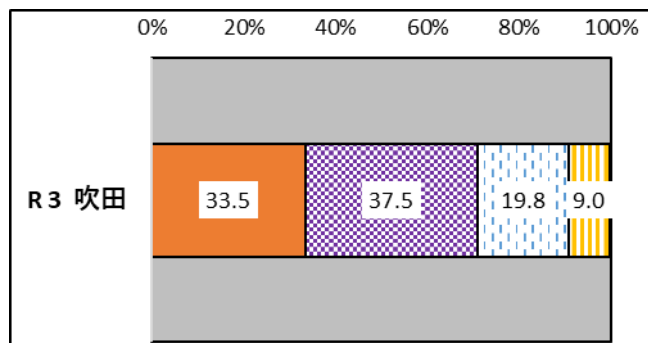
- ・肯定的回答率・・・小学生：73.6%（全国比－1.0%）
 中学生：71.0%（全国比＋3.3%）

〔小学校〕



R 3 全国	39.2	35.4	18.2	7.0
--------	------	------	------	-----

〔中学校〕



R 3 全国	30.5	37.2	22.5	9.7
--------	------	------	------	-----



【英語】児童・生徒質問紙より

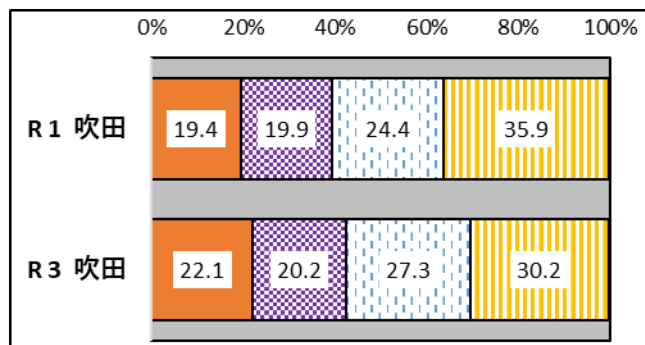
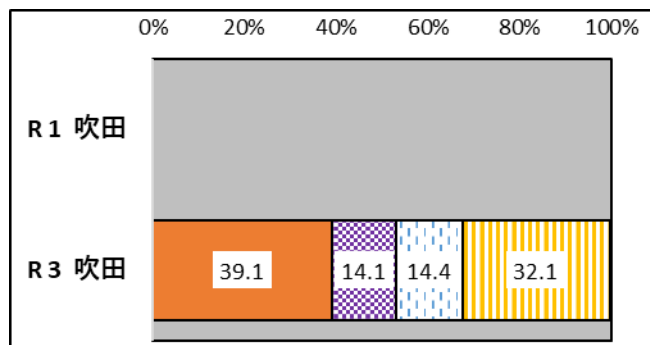
Q：これまで、学校の授業やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会が十分にありましたか。（地域の人や海外にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビやホームページを見る、英会話教室に通うなど）

※この設問は、小学校では、今年度初めて設問に加われました。

・肯定的回答率・・・小学校：53.2%（全国比+8.8%）
 中学生：42.3%（全国比+7.5% 前回比+3.0%）

〔小学校〕

〔中学校〕



R 1 全国				
R 3 全国	29.5	14.9	18.9	36.5

R 1 全国	15.4	18.4	26.2	39.8
R 3 全国	16.5	18.3	27.9	36.9

当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない

英語について

（今年度は質問紙調査のみ。質問紙調査は、小学校も回答対象になっています。）

現状

◇以下の項目では、小・中学校ともに、全国値を大きく上回った。中学校では、前回調査（令和元年度）からの経年変化としても向上している。

Q：あなたはこれまで、学校の授業やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会（地域の人や海外にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビやホームページを見る、英会話教室に通うなど）が十分にありましたか。

◇小学校では、上記を除く2項目で、全国値を下回った。

改善・向上のために

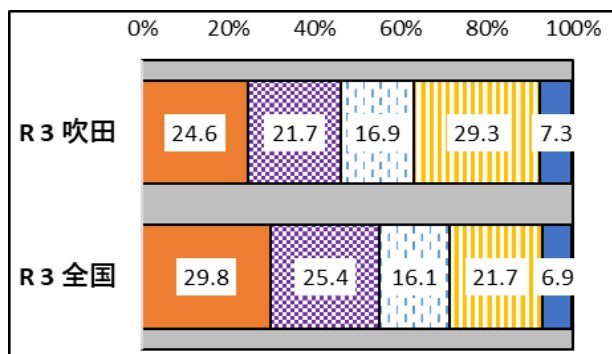
- ◆小学校における「外国語活動」と「外国語科」そして中学校へと学習内容の円滑な学びの継続が図られるよう、学校生活における活動、地域行事、児童・生徒の体験等と関連付けた言語活動を中心とする授業を構成する。
- ◆授業を実際のコミュニケーションの場面と捉え、児童・生徒の発達段階に応じた英語を使って授業を行う等、児童・生徒が英語に触れる機会を充実させる。

【新型コロナウイルスの感染拡大について】児童・生徒質問紙より

Q：新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか。

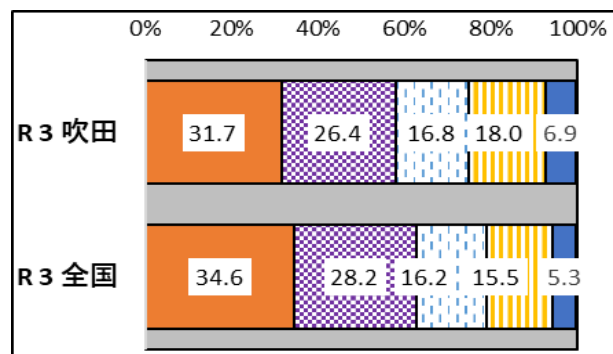
- ・不安を感じている（「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた）回答率
 小学生：46.3%（全国比－8.9%） 中学生：58.1%（全国比－4.7%）

〔小学校〕

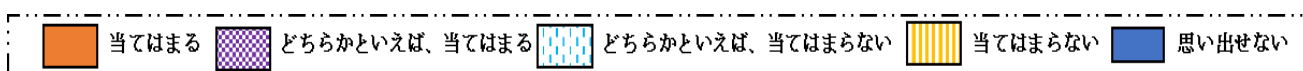


R 3 吹田	24.6	21.7	16.9	29.3	7.3
R 3 全国	29.8	25.4	16.1	21.7	6.9

〔中学校〕



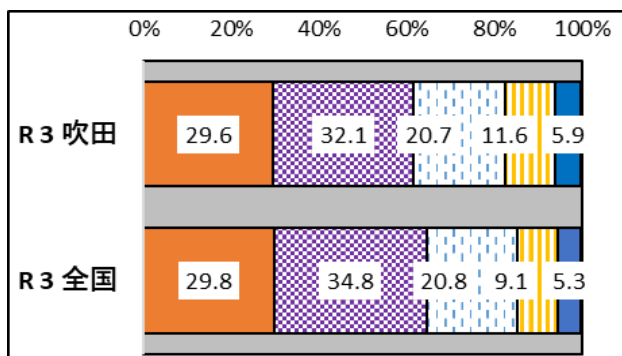
R 3 吹田	31.7	26.4	16.8	18.0	6.9
R 3 全国	34.6	28.2	16.2	15.5	5.3



Q：新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができましたか。

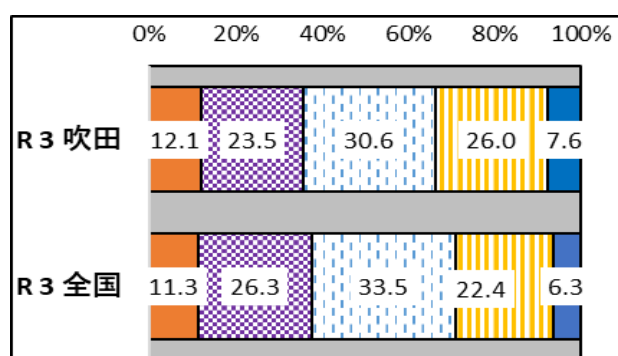
- ・肯定的回答率・・・小学校：61.7%（全国比－2.9%） 中学生：35.6%（全国比－2.0%）

〔小学校〕

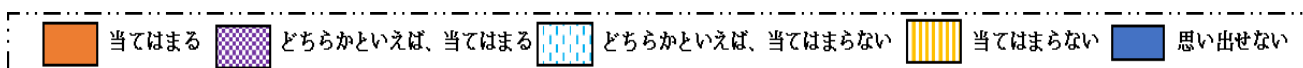


R 3 吹田	29.6	32.1	20.7	11.6	5.9
R 3 全国	29.8	34.8	20.8	9.1	5.3

〔中学校〕



R 3 吹田	12.1	23.5	30.6	26.0	7.6
R 3 全国	11.3	26.3	33.5	22.4	6.3

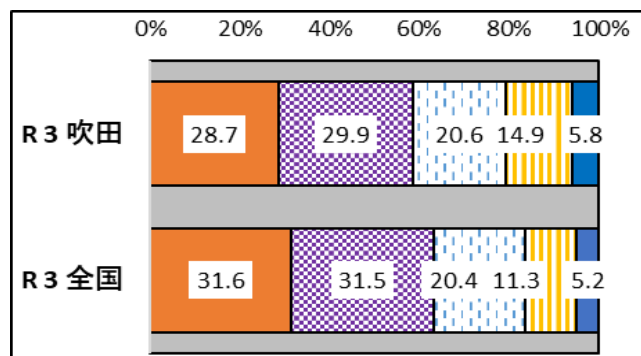


【新型コロナウイルスの感染拡大について】児童・生徒質問紙より

Q：新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていましたか。

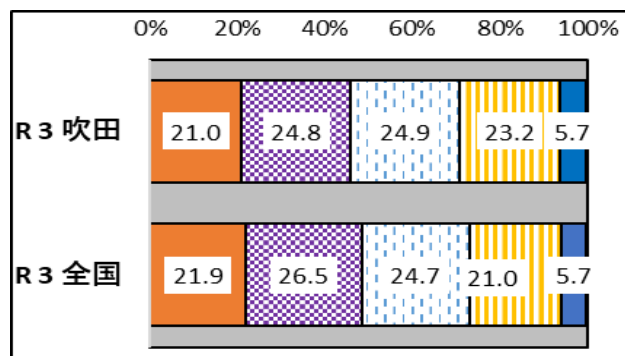
・肯定的回答率・・・小学生：58.6%（全国比－4.5%） 中学生：45.8%（全国比－2.6%）

〔小学校〕



R 3 吹田	28.7	29.9	20.6	14.9	5.8
R 3 全国	31.6	31.5	20.4	11.3	5.2

〔中学校〕

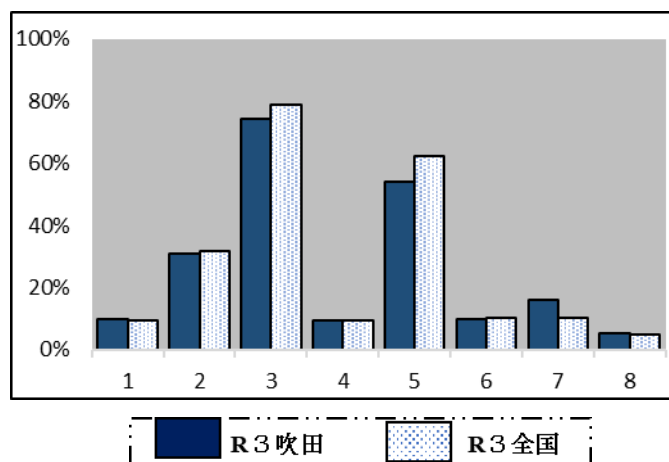


R 3 吹田	21.0	24.8	24.9	23.2	5.7
R 3 全国	21.9	26.5	24.7	21.0	5.7

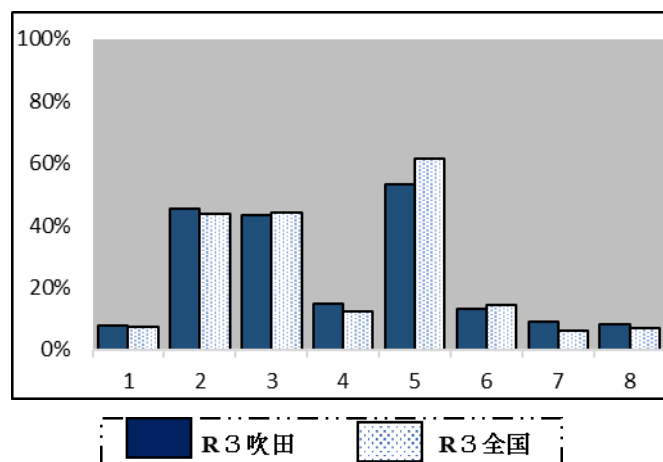
当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない
 思い出せない

Q：新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていましたか。（複数選択）

〔小学校〕



〔中学校〕



1. 先生に聞いた 2. 友達に聞いた 3. 家族に聞いた 4. 上記1, 2, 3以外の人に聞いた 5. 自分で調べた
 6. 分からないことをそのままにした 7. 分からないことがなかった 8. 思い出せない

〔小学校〕

	1	2	3	4	5	6	7	8
R 3 吹田	9.8	30.8	74.3	9.2	54.0	9.7	16.0	5.4
R 3 全国	9.2	31.9	78.8	9.4	62.4	10.1	10.3	4.9

〔中学校〕

	1	2	3	4	5	6	7	8
R 3 吹田	7.7	45.4	43.3	15.0	53.2	13.1	8.9	8.2
R 3 全国	7.2	43.9	44.3	12.3	61.6	14.3	6.3	6.9

吹田市〔小学校〕	%
3. 家族に聞いた	74.3
5. 自分で調べた	54.0
2. 友達に聞いた	30.8
7. 分からないことがなかった	16.0
1. 先生に聞いた	9.8
6. 分からないことをそのままにした	9.7
4. 上記1、2、3以外の人に聞いた	9.2
8. 思い出せない	5.4

吹田市〔中学校〕	%
5. 自分で調べた	53.2
2. 友達に聞いた	45.4
3. 家族に聞いた	43.3
4. 上記1、2、3以外の人に聞いた	15.0
6. 分からないことをそのままにした	13.1
7. 分からないことがなかった	8.9
8. 思い出せない	8.2
1. 先生に聞いた	7.7

新型コロナウイルスの感染拡大について

現状

- ◇「勉強について不安を感じていた」の肯定的回答率は、小・中学生ともに全国値を下回っているが、中学生の肯定的回答率は58.1％であり、過半数が不安を感じていたことがわかる。
- ◇「計画的に学習を続けたか」、「規則正しい生活を送っていたか」の肯定的回答率では、小・中学校ともに全国値を下回っている。
- ◇また、中学生の肯定的回答率は、吹田市・全国ともに小学校の肯定的回答率を下回っている。
 - Q：「計画的に学習を続けたか」 （小学生：61.7％ 中学生：35.6％）
 - Q：「規則正しい生活を送っていたか」 （小学生：58.6％ 中学生：45.8％）
- ◇課題で分からないところがあったとき、「そのままにした」と回答した割合は、全国値を下回っている。（小学校では9.7％、中学校では13.1％）

改善・向上のために

- ◆やむなく登校できない場合においても、家庭との連携をベースに一人1台端末を活用したオンラインホームルーム等により、学校と児童・生徒とのつながりの確保や生活リズムを保つ支援を行い、心身の安定に努めるとともに、学習についても適切な支援を行う。
- ◆感染症への不安から、集団での人間関係の構築に不安を抱く児童・生徒が一定数いることを鑑み、様々な状況・立場にあることを踏まえた他者理解の視点を育む指導を発達段階に合わせて行う。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査結果

【分析グラフの見方について】

- ①「している（当てはまる）」「どちらかといえばしている（当てはまる）」を合わせたものを「肯定的回答群」としている。
「あまりしていない（どちらかといえば）当てはまらない」「全くしていない（当てはまらない）」を合わせたものを「否定的回答群」としている。
- ②「R1吹田」「R1全国」は、前回調査「平成31年（令和元年度）全国学力・学習状況調査」における児童・生徒質問紙の調査結果を掲載したものである。（本調査と同一の質問項目がある場合のみ）
※平成30年度（平成29年度）も同様に掲載

（1）自分自身のことについて

現状及び経年変化

- ◇「人の役に立つ人間になりたい」について肯定的な回答をしている割合は小・中学校ともに約95%であり、人との関わりを持とうとする姿勢が見られる。
- ◇「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか。」「人が困っている時は進んで助けていますか。」については、肯定的な回答をしている割合は小・中学校ともに80%を超えており、主体的に判断し、行動しようとする姿勢が見られる。
- ◇「自分には、よいところがあると思いますか。」に対する肯定的回答率は小・中学校ともに80%を下回っている。この自己肯定感の低さから「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。」の肯定的回答率も70%を下回る結果となっており、「将来の夢や目標を持っていますか。」に対する中学生の肯定的回答率も70%を下回っている。

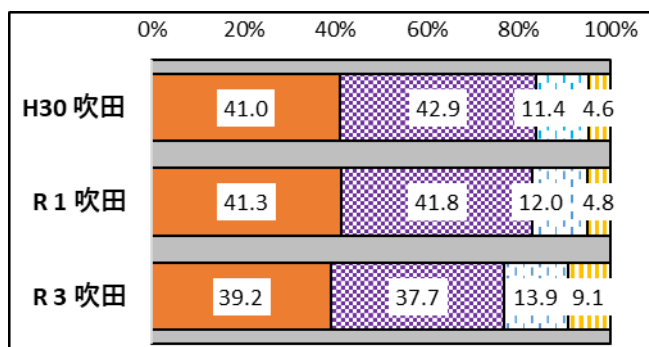
改善・向上のために

- ・学校と家庭が連携し、子供たちの自己肯定感を高めるために、日常生活の中で、自己有用感を感じることができる機会をできるだけ多く持つ。
- ・子供たちが、自信をもって自立して生きていくための自己管理能力を身に付けられるように自分で計画を立てて勉強する、規則正しい生活リズムを整えるなど、学校と家庭が連携して取り組む。
- ・自分の考えや思いを実現できる場面を教育活動の中で設定する。その際、「学びに向かう力、人間性等」の視点から、学習状況を把握し、試行錯誤する姿を積極的に評価し、繰り返し挑戦する姿勢を価値づける。
- ・子供がもてる力を発揮できるように学校も家庭も安心安全な環境づくりを整え、疑問に感じ、調べたい、試したいといった知的好奇心を発揮する姿を積極的に認める。

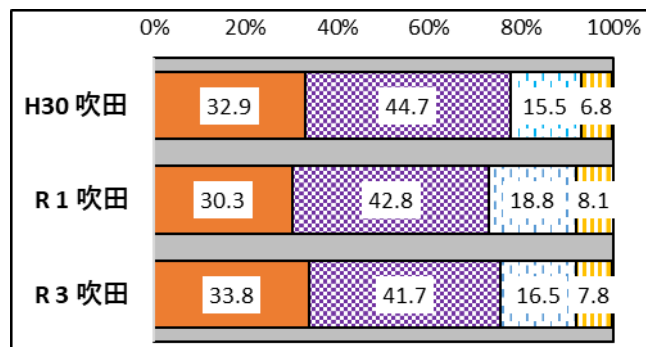
Q：自分には、よいところがあると思いますか。

・肯定的回答率・・・小学生：76.9%（全国比±0、前回比－6.2%、H30比－7.0%）
 中学生：75.5%（全国比－0.7%、前回比＋2.4%、H30比－2.2%）

〔小学校〕



〔中学校〕



H30 全国	41.2	42.8	11.6	4.3
R1 全国	38.8	42.4	13.4	5.3
R3 全国	36.2	40.7	15.5	7.5

H30 全国	33.7	45.1	15.2	6.0
R1 全国	29.0	45.1	18.6	7.3
R3 全国	34.5	41.7	16.6	7.1



【平均正答率との関係】

〔小学校〕

選択肢		平均正答率 (%)	
		国語	算数
1	当てはまる	69.4	78.1
2	どちらかといえば、当てはまる	66.6	75.0
3	どちらかといえば、当てはまらない	64.6	73.4
4	当てはまらない	65.4	72.6

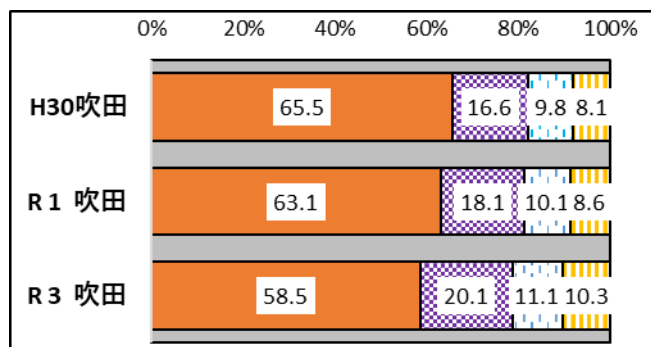
〔中学校〕

選択肢		平均正答率 (%)	
		国語	数学
1	当てはまる	68.0	66.4
2	どちらかといえば、当てはまる	67.5	65.3
3	どちらかといえば、当てはまらない	66.1	62.4
4	当てはまらない	64.2	57.7

Q：将来の夢や目標を持っていますか。

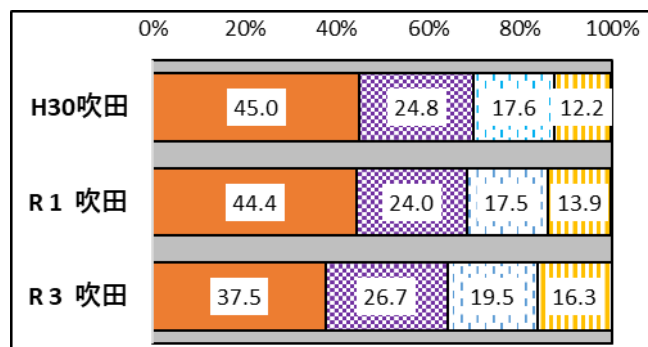
・肯定的回答率・・・小学生：78.6%（全国比－1.7%、前回比－2.6%、H30比－3.5%）
 中学生：64.2%（全国比－4.4%、前回比－4.2%、H30比－5.6%）

〔小学校〕



H30 吹田	65.5	16.6	9.8	8.1
R1 吹田	63.1	18.1	10.1	8.6
R3 吹田	58.5	20.1	11.1	10.3

〔中学校〕



H30 吹田	45.0	24.8	17.6	12.2
R1 吹田	44.4	24.0	17.5	13.9
R3 吹田	37.5	26.7	19.5	16.3

当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない

【平均正答率との関係】

〔小学校〕

選択肢		平均正答率（％）	
		国語	算数
1	当てはまる	67.2	75.2
2	どちらかといえば、当てはまる	67.4	76.4
3	どちらかといえば、当てはまらない	66.8	77.0
4	当てはまらない	68.5	76.3

〔中学校〕

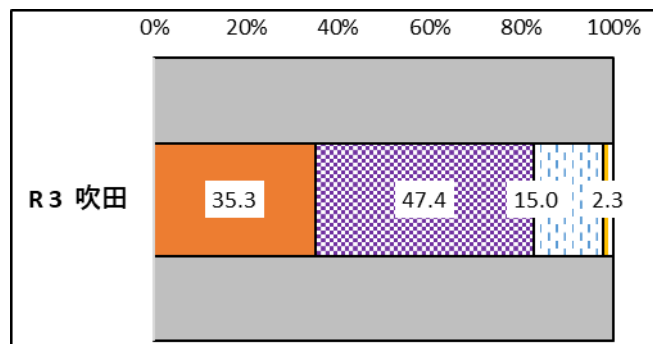
選択肢		平均正答率（％）	
		国語	数学
1	当てはまる	66.8	64.5
2	どちらかといえば、当てはまる	69.0	65.7
3	どちらかといえば、当てはまらない	67.4	65.1
4	当てはまらない	64.9	62.3

Q：自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか。

※この設問は、今年度初めて設定されました。

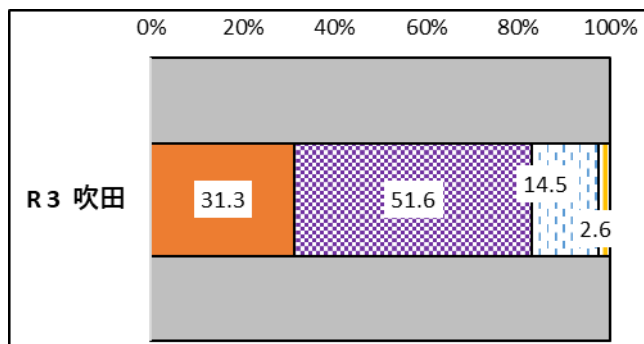
- ・肯定的回答率・・・小学生：82.7%（全国比－1.6%）
中学生：82.9%（全国比＋4.7%）

〔小学校〕



R 3 全国	35.9	48.4	13.8	1.9
--------	------	------	------	-----

〔中学校〕



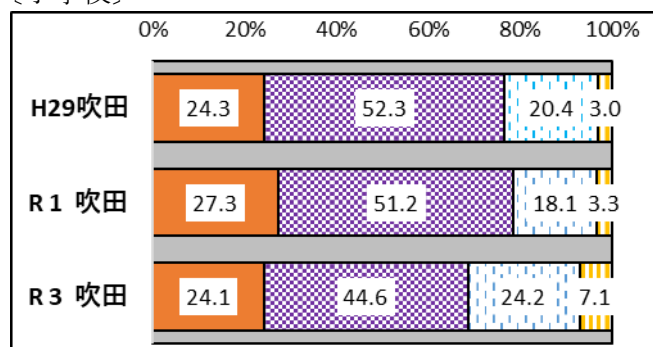
R 3 全国	34.7	49.5	13.7	2.0
--------	------	------	------	-----

当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない

Q：難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。

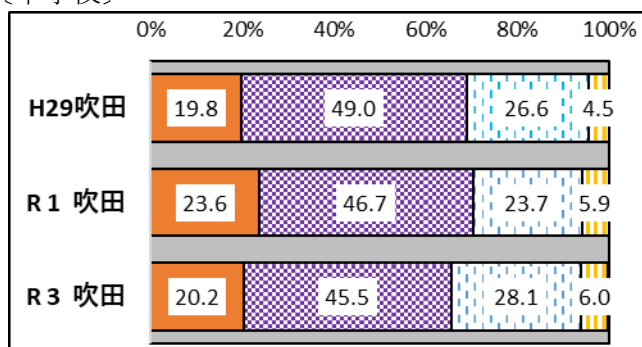
- ・肯定的回答率・・・小学生：68.7%（全国比－2.2%、前回比－9.8%、H29比－7.9%）
中学生：65.7%（全国比－0.2%、前回比－4.6%、H29比－3.1%）

〔小学校〕



H30 全国	26.7	50.7	19.5	3.0
R 1 全国	30.1	48.9	17.6	3.3
R 3 全国	24.4	46.5	24.0	5.1

〔中学校〕



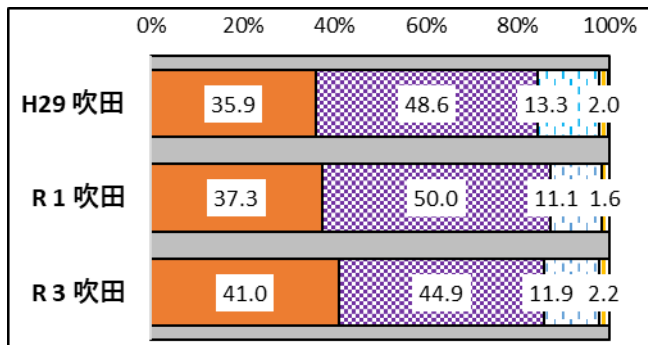
H29 全国	19.9	51.1	25.1	3.8
R 1 全国	22.5	47.8	25.0	5.6
R 3 全国	20.0	45.9	28.3	5.6

当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない

Q：人が困っているときは、進んで助けていますか。

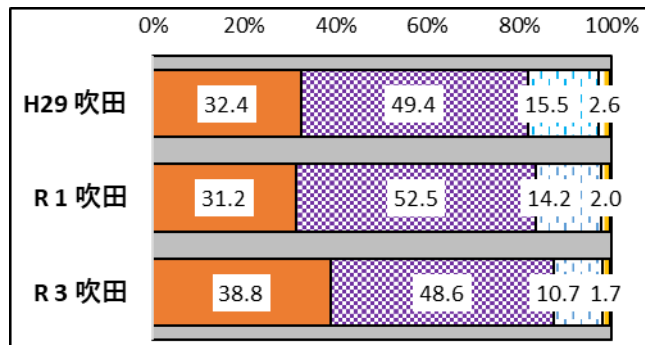
- ・肯定的回答率・・・小学生：85.9%（**全国比**－2.8%、**R1比**－1.4%、**H29比**＋1.4%）
 中学生：87.4%（**全国比**－1.1%、**R1比**＋3.7%、**H29比**＋5.6%）

〔小学校〕



H29 全国	38.5	46.8	12.3	2.3
R1 全国	40.4	47.5	10.5	1.5
R3 全国	43.6	45.1	9.8	1.6

〔中学校〕



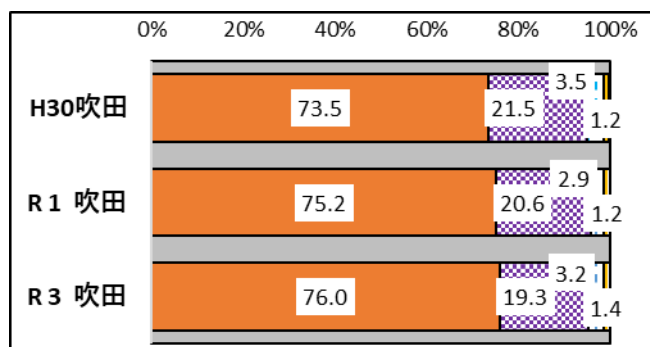
H29 全国	35.6	48.8	13.0	2.4
R1 全国	34.6	51.3	12.3	1.7
R3 全国	41.6	46.9	9.8	1.6

当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない

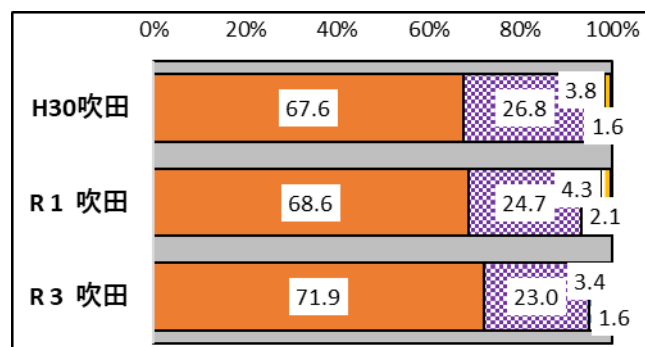
Q：人の役に立つ人間になりたいと思いますか。

・肯定的回答率・・・小学生：95.3%（**全国比**－0.2%、**前回比**－0.5、**H30比**＋0.3%）
 中学生：94.9%（**全国比**－0.1%、**前回比**＋1.6、**H29比**＋0.5%）

〔小学校〕



〔中学校〕



H30 全国	74.2	21.0	3.3	1.3
R 1 全国	74.7	20.5	3.4	1.2
R 3 全国	75.4	20.1	3.3	1.2

H30 全国	70.7	24.2	3.5	1.4
R 1 全国	71.1	23.2	3.9	1.6
R 3 全国	74.3	20.7	3.5	1.5



【平均正答率との関係】

〔小学校〕

選択肢		平均正答率 (%)	
		国語	算数
1	当てはまる	68.6	76.8
2	どちらかといえば、当てはまる	64.8	73.5
3	どちらかといえば、当てはまらない	55.4	66.0
4	当てはまらない	62.3	71.3

〔中学校〕

選択肢		平均正答率 (%)	
		国語	数学
1	当てはまる	67.9	65.7
2	どちらかといえば、当てはまる	65.7	62.4
3	どちらかといえば、当てはまらない	64.4	60.0
4	当てはまらない	62.3	55.4

(2) 家庭生活・地域社会について

現状

- ◇「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」に対する肯定的回答率は、小・中学生ともに全国値を上回っている。
 - ◇「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか」について、「4時間以上」と回答している割合は、小・中学校生ともに全国値を上回っている。
 - ◇「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」に対して、小学生で30分以上と回答している割合は全国値を上回っているが、中学生は下回っている。特に、全く読書をしていない中学生の割合は全国値を大きく上回っている。また、小・中学生ともに30分以上読書していると回答している児童・生徒は、各教科の正答率が高い傾向にある。
 - ◇「新聞を読んでいますか」に対する肯定的回答率は、小・中学生ともに全国値を下回っている。また、この質問に対して肯定的に回答している児童・生徒は各教科の正答率が高い傾向にある。
 - ◇「あなたの家には、およそどのくらい本がありますか（一般の雑誌、新聞、教科書は除く）」に対して、小・中学生ともに101冊以上と回答している割合は、全国値を上回っている。また、101冊以上と回答している児童・生徒は、101冊未満と回答している児童・生徒よりも各教科の正答率が高い傾向にある。
-
- ◇「地域の行事に参加していますか」に対する肯定的回答率は、小・中学生とも前回調査及び平成30年度より減少しているとともに、全国値を大きく下回っている。また、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」という質問においても全国値を下回る結果であり、社会参画への意識が全国より低くなっている。

改善・向上のために

◆学校

- ・デジタル・シティズンシップ教育に取り組み、児童・生徒が自分自身の生活を見つめ直し、ウェルビーイングの視点からインターネット、テレビ、ゲーム、本、新聞、雑誌などのメディアを自分にとってバランス良く利用することについて考える機会を設ける。また、学校での取組を家庭にも発信し、学校と家庭の連携を図る。
- ・子供たちが自ら進んで読書をし、読書をとおして人生を豊かにしようとする態度を養うために、国語科の学習が読書活動に結びつくよう発達段階に応じて系統的に指導を行う。また、学校図書館などを利用し、本や新聞など複数の資料を活用しながら調べる活動等を行う。

◆家庭

- ・デジタル・シティズンシップ教育で学んだことを家庭でも話す機会を持ち、携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、子供自身が主体的に考え、行動できるようにする。
- ・読書習慣の定着については、読んだ本の楽しさ・面白さについて話す機会を持ったり、家族で読書をしたりする等、本を身近に感じられる環境を整える。

◆学校

- ・担任や教科担当教員が、それぞれの教科、領域に関わる社会の動きや時事問題を話題にし、児童・生徒に興味関心を持たせるとともに、公民としての資質・能力を育成する。

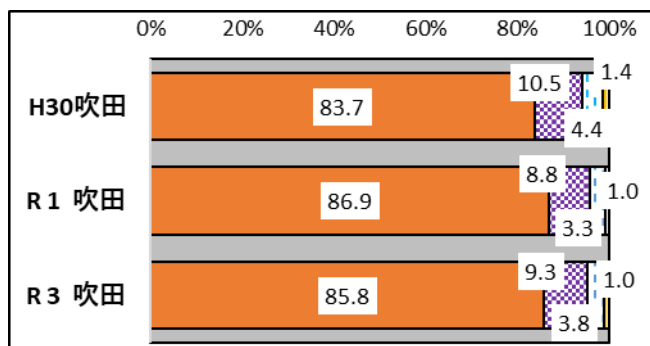
◆家庭

- ・社会や地域に関心を持てるよう、テレビやインターネットのニュースを一緒に見たり、時事問題を話題にしたり、地域行事やボランティアに参加する等、社会参画の意識を高める。

Q：朝食を毎日食べていますか。

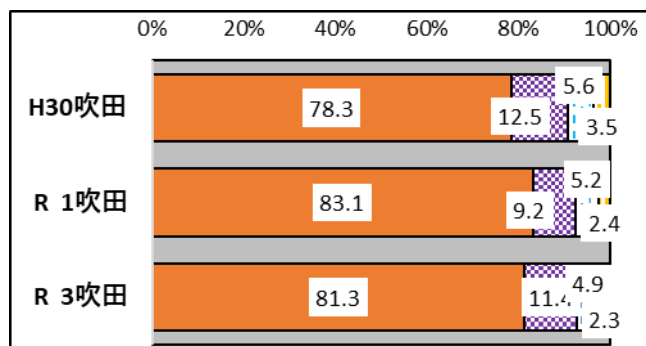
- ・肯定的回答率・・・小学生：95.1%（**全国比**+0.2%、**前回比**-0.6%、**H30比**+0.9%）
 中学生：92.7%（**全国比**-0.1%、**前回比**+0.4%、**H30比**+1.9%）

〔小学校〕

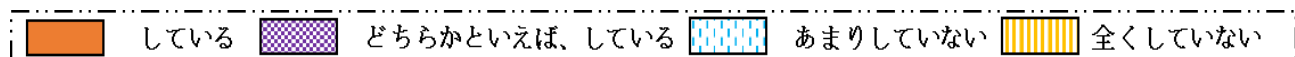


H30 全国	84.8	9.7	4.1	1.4
R 1 全国	86.7	8.6	3.6	1.0
R 3 全国	85.8	9.1	3.9	1.2

〔中学校〕



H30 全国	79.7	12.2	5.4	2.6
R 1 全国	82.3	10.8	4.9	2.0
R 3 全国	81.8	11.0	4.9	2.2



【平均正答率との関係】

〔小学校〕

選択肢		平均正答率（％）	
		国語	算数
1	している	68.7	76.9
2	どちらかといえば、している	60.3	70.4
3	あまりしていない	56.1	66.3
4	全くしていない	52.7	66.1

〔中学校〕

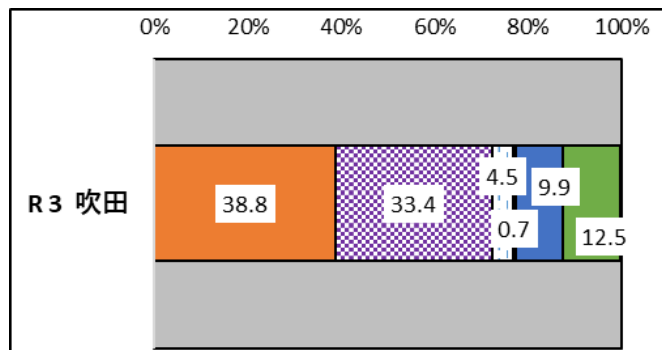
選択肢		平均正答率（％）	
		国語	数学
1	している	68.5	66.5
2	どちらかといえば、している	63.2	59.4
3	あまりしていない	58.1	48.0
4	全くしていない	59.1	55.0

Q：携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。

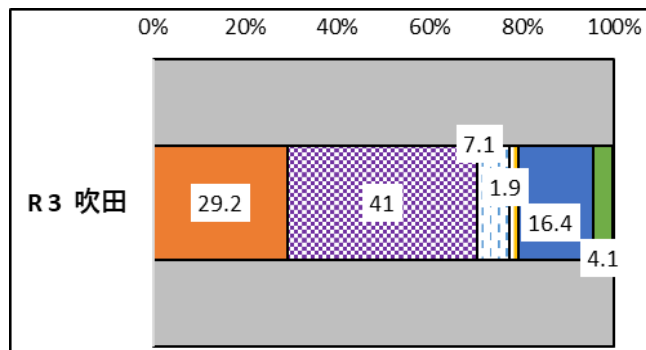
※この設問は、今年度初めて設定されました。

・肯定的回答率・・・小学生：72.2%（全国比+2.1%） 中学生：70.2%（全国比+2.3%）

〔小学校〕

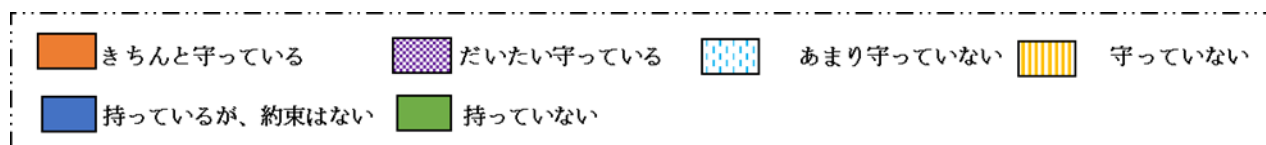


〔中学校〕



R 3 全国	38.0	32.1	4.7	0.9	11.8	12.4
--------	------	------	-----	-----	------	------

R 3 全国	30.9	37.0	6.6	1.5	18.9	4.8
--------	------	------	-----	-----	------	-----

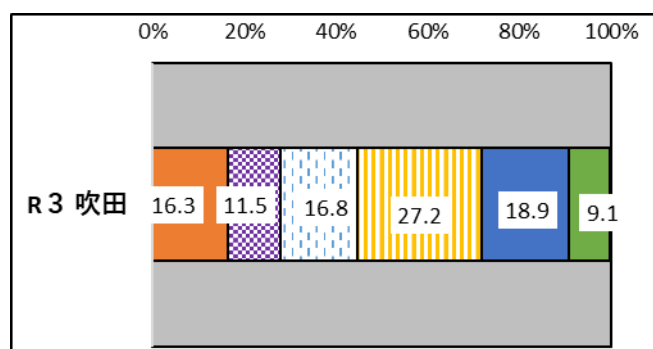


Q：普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか。

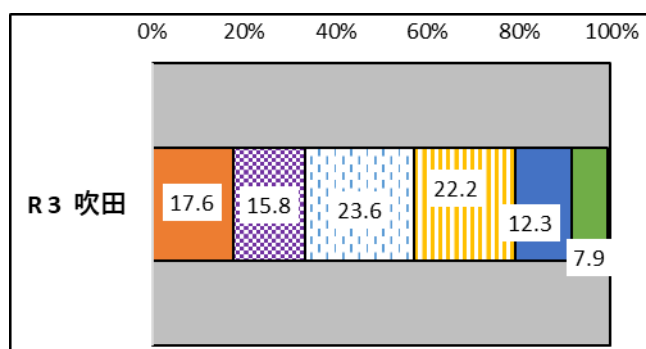
※この設問は、今年度初めて設定されました。

・1日2時間以上の割合…小学生：44.6%（全国比-4.8%） 中学生：57.0%（全国比±0）

〔小学校〕

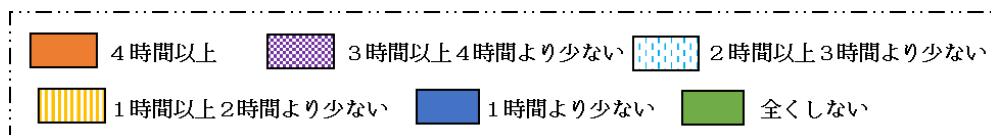


〔中学校〕



R 3 全国	15.5	13.5	20.4	26.8	16.5	7.2
--------	------	------	------	------	------	-----

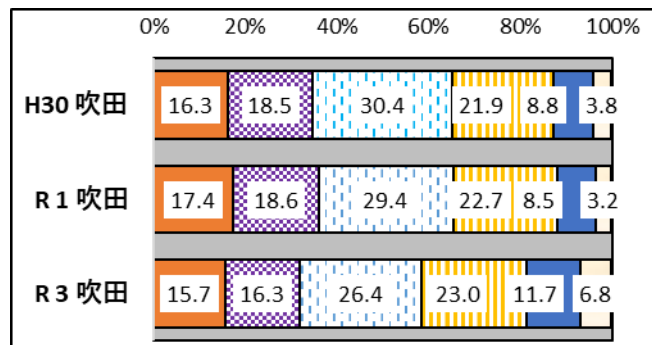
R 3 全国	16.7	15.6	24.7	23.0	12.4	7.3
--------	------	------	------	------	------	-----



Q：学校の授業時間以外に、普段（月曜日～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

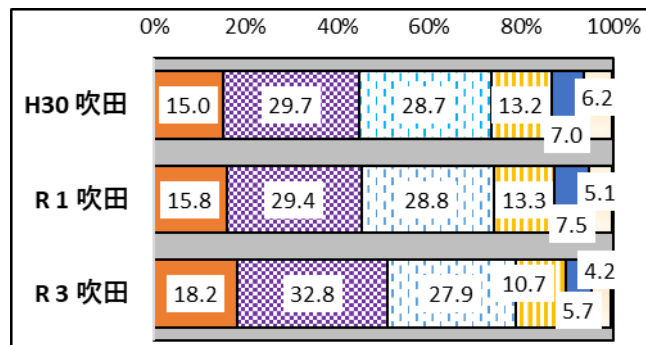
- ・1日2時間以上の割合…小学生：32.0%（全国比＋5.1%、前回比－4.0%、H30比－2.8%）
中学生：51.0%（全国比＋9.2%、前回比＋5.8%、H30比＋6.3%）

〔小学校〕

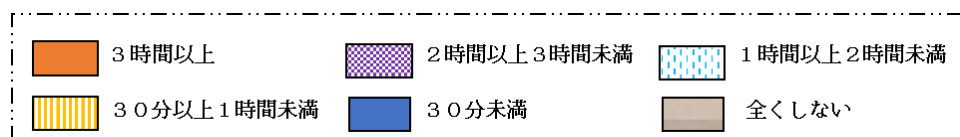


H30 全国	12.5	16.8	36.9	23.8	7.4	2.5
R1 全国	12.4	16.9	36.8	24.1	7.6	2.3
R3 全国	11.6	15.3	35.6	24.5	9.5	3.5

〔中学校〕



H30 全国	10.5	25.3	34.2	16.6	7.9	4.9
R1 全国	9.9	25.6	34.3	17.2	8.4	4.4
R3 全国	12.3	29.5	34.1	14.1	6.4	3.5

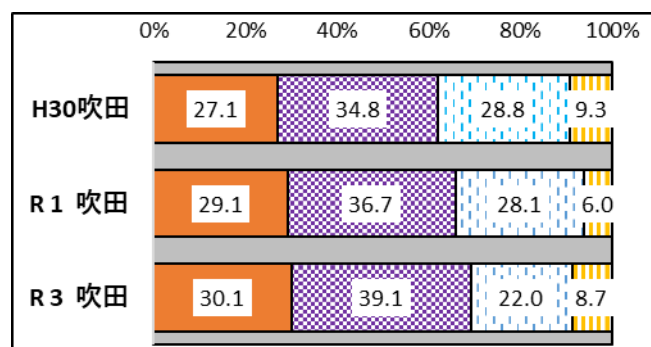


Q：家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。（学校の授業の予習や復習を含む）

・肯定的回答率・・・小学生：69.2%（全国比－4.8%、前回比＋3.4%、H29比＋7.3%）

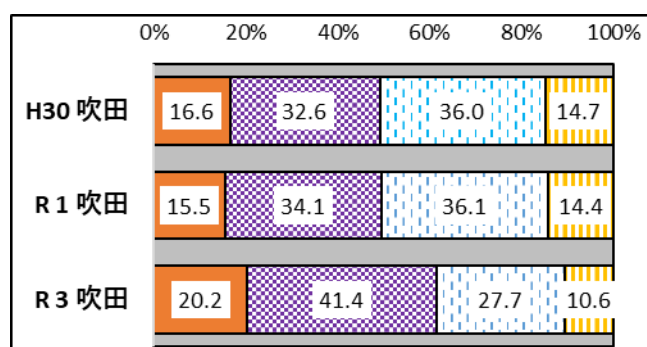
中学生：61.6%（全国比－1.9%、前回比＋12.0%、H29比＋12.4%）

〔小学校〕

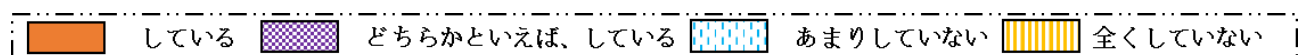


H30 全国	30.7	36.9	24.7	7.6
R1 全国	33.1	38.4	23.0	5.5
R3 全国	31.2	42.8	19.8	6.1

〔中学校〕



H30 全国	16.6	35.5	34.8	13.0
R1 全国	14.9	35.5	37.3	12.2
R3 全国	19.4	44.1	27.1	9.4



【平均正答率との関係】

〔小学校〕

選択肢		平均正答率（%）	
		国語	算数
1	している	73.9	80.8
2	どちらかといえば、している	65.1	74.1
3	あまりしていない	64.7	73.8
4	全くしていない	61.3	70.7

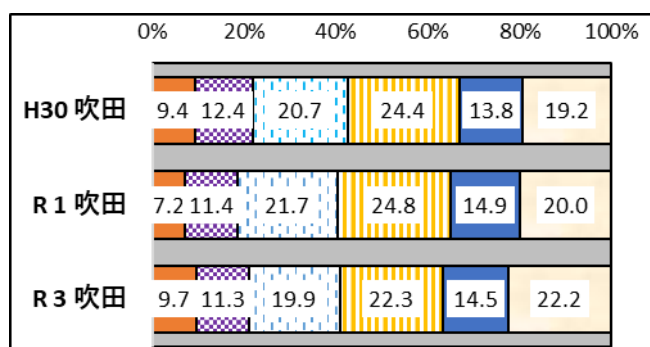
〔中学校〕

選択肢		平均正答率（%）	
		国語	数学
1	している	74.4	73.9
2	どちらかといえば、している	67.1	64.3
3	あまりしていない	64.5	61.6
4	全くしていない	60.8	55.1

Q：学校の授業時間以外に、普段（月曜日～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をするか。（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）

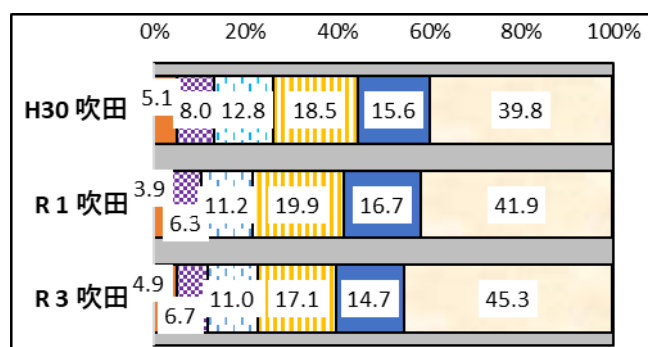
- ・全くしない割合…小学生：22.2%（全国比－1.8%、前回比＋2.2%、H29比＋3.0%）
 中学生：45.3%（全国比＋7.9%、前回比＋3.4%、H29比＋5.5%）

〔小学校〕

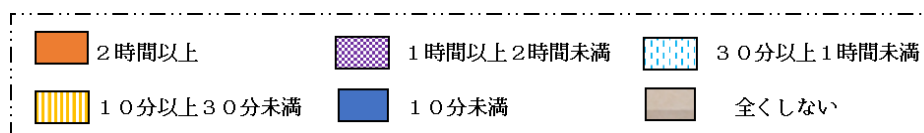


H30 全国	7.8	11.5	21.8	25.1	14.9	18.7
R1 全国	7.0	11.3	21.5	25.9	15.6	18.7
R3 全国	7.4	10.8	19.2	23.8	14.7	24.0

〔中学校〕



H30 全国	6.1	8.7	16.1	22.6	13.5	32.9
R1 全国	4.8	7.6	14.6	23.4	14.8	34.8
R3 全国	5.5	8.6	14.8	21.2	12.4	37.4

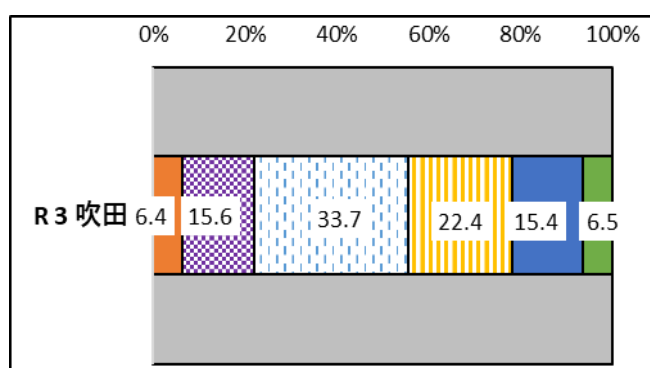


Q：あなたの家には、およそどれくらい本がありますか。（雑誌、新聞、教科書は除く）

※この設問は、今年度初めて設定されました。

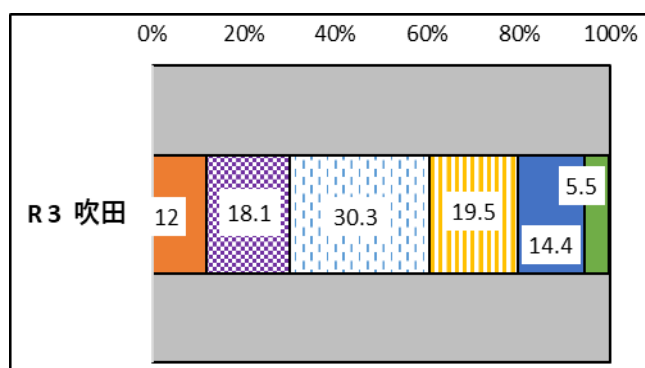
- ・100冊以上ある割合…小学生：44.3%（全国比＋8.1%）
 中学生：39.4%（全国比＋5.5%）

〔小学校〕

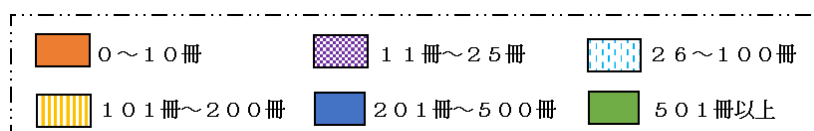


R3 全国	11.1	18.9	33.7	19.2	12.1	4.9
-------	------	------	------	------	------	-----

〔中学校〕



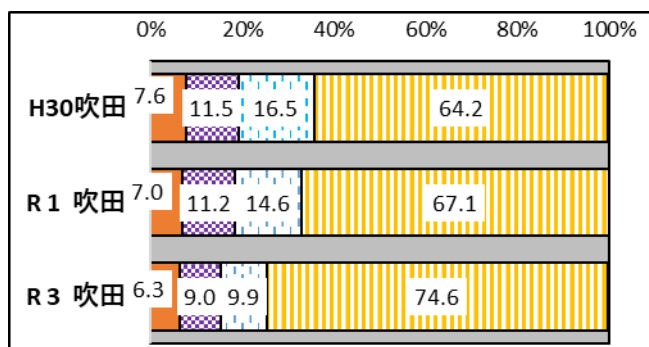
R3 全国	14.6	19.8	31.5	17.2	12.2	4.5
-------	------	------	------	------	------	-----



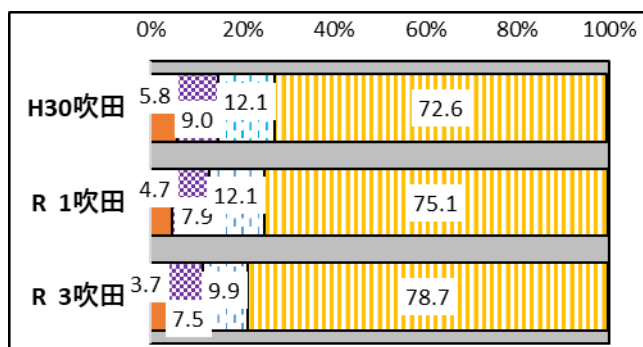
Q：新聞を読んでいますか。

・肯定的回答率・・・小学生：15.3%（全国比＋0.5%、前回比－2.9%、H29比－3.8%）
 中学生：11.2%（全国比＋0.8%、前回比－1.4%、H29比－3.6%）

〔小学校〕

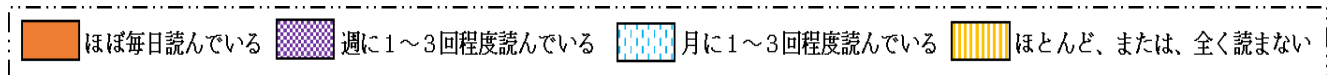


〔中学校〕



H30 全国	7.4	12.5	19.0	60.9
R 1 全国	7.0	12.0	19.5	64.1
R 3 全国	5.1	9.7	14.7	70.4

H30 全国	4.9	9.0	15.3	70.4
R 1 全国	4.4	8.3	15.8	71.3
R 3 全国	3.4	7.0	12.6	76.7



【平均正答率との関係】

〔小学校〕

選択肢		平均正答率（％）	
		国語	算数
1	ほぼ毎日読んでいる	76.6	83.3
2	週に1～3回程度読んでいる	75.7	82.1
3	月に1～3回程度読んでいる	68.5	77.2
4	ほとんど、または、全く読まない	65.4	74.2

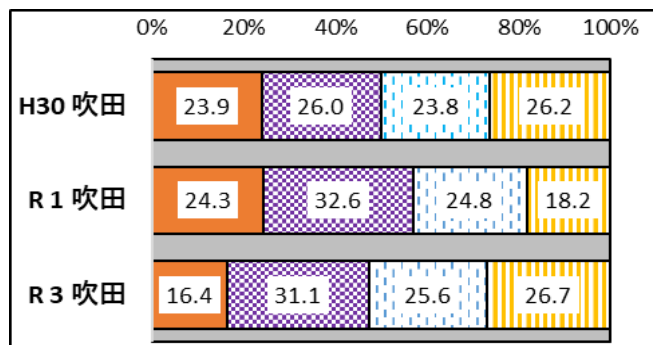
〔中学校〕

選択肢		平均正答率（％）	
		国語	数学
1	ほぼ毎日読んでいる	74.2	75.1
2	週に1～3回程度読んでいる	74.1	72.9
3	月に1～3回程度読んでいる	70.0	68.5
4	ほとんど、または、全く読まない	65.9	62.8

Q：今住んでいる地域の行事に参加していますか。

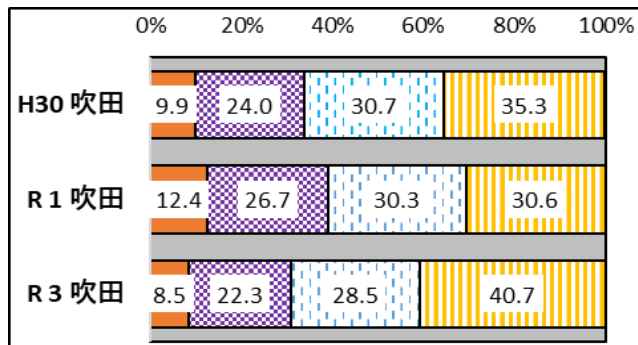
- ・肯定的回答率・・・小学生：47.5%（全国比－10.6%、前回比－9.4%、H29比－2.4%）
 中学生：30.8%（全国比－12.9%、前回比－8.3%、H27比－3.1%）

〔小学校〕



H30 全国	35.9	26.8	19.2	18.0
R 1 全国	37.2	30.8	18.6	13.4
R 3 全国	26.7	31.4	22.8	19.0

〔中学校〕



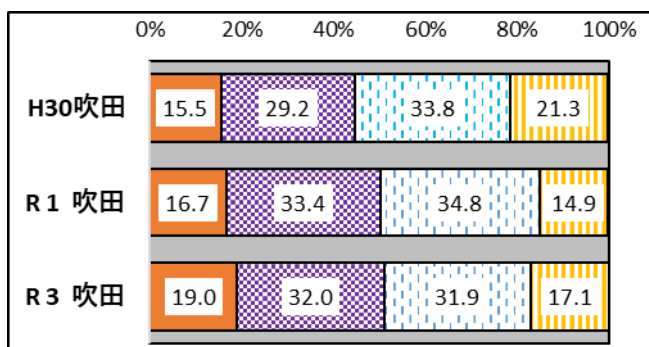
H30 全国	18.6	27.0	27.9	26.4
R 1 全国	21.0	29.6	26.1	23.2
R 3 全国	16.3	27.4	27.0	29.1

当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない

Q：地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。

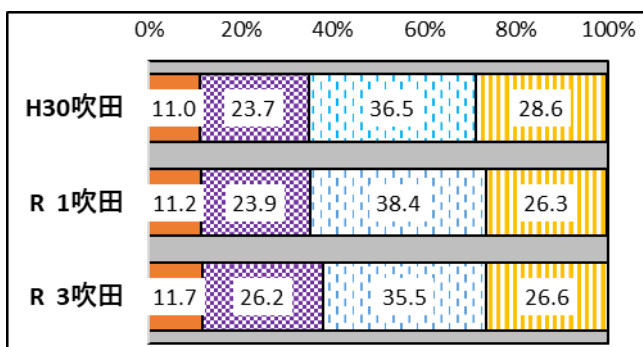
- ・肯定的回答率・・・小学生：51.0%（全国比－1.4%、前回比＋0.9%、H29比＋6.3%）
 中学生：37.9%（全国比－5.9%、前回比＋2.8%、H29比＋3.2%）

〔小学校〕



H30 全国	17.3	32.6	33.0	17.0
R 1 全国	18.9	35.6	32.3	13.1
R 3 全国	17.8	34.6	32.4	15.1

〔中学校〕



H30 全国	10.6	28.1	39.6	21.7
R 1 全国	11.5	27.9	38.9	21.6
R 3 全国	12.6	31.2	36.2	19.8

当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない

(3) 学校生活について

現状及び経年比較

◇「学校へ行くのは楽しいと思いますか。」に対する肯定的回答率は、小・中学生ともに約82%だが、前回調査と比較すると、小学校において大きく下回っているとともに、全国値と比較しても下回っている。

◇「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」について、前回調査と比較すると、小学校は下回っているが、中学校は上回っている。また、全国値と比較すると小・中学校ともわずかではあるが下回っている。

◇「学級の友達との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていると思う」に対する肯定的な回答の割合が、小・中学生ともに全国値を上回っている。

◇「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いのよさを生かして解決方法を決めていると思いますか。」に対する肯定的回答率は、小・中学生ともに前回調査と比較して大きく上回っている。ただ、中学校においては全国値と比較すると下回っている。

改善・向上のために

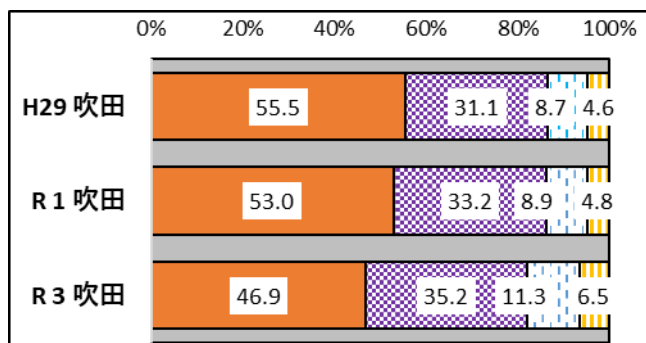
◆「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」との認識が一層高まるよう、いじめ予防授業を通して、相手の立場に立って考えることやシンキングエラーやアンバランスパワー等のいじめが深刻化するキーワードについての理解をさらに深めていく必要がある。また、学校生活全般において継続的で一貫した「成長を促す指導」を推進していく必要である。

◆学級の友達との話し合い活動によって自分の考えを深めたり広げたりすることができている。今後は、さらに自分とは異なる意見に対して考え議論する機会を積極的に設けることにより、違いを豊かさにする学級風土を醸成する。また、授業においても授業者中心の授業から学習者中心の授業に改善する必要がある。

Q：学校に行くのは楽しいと思いますか。

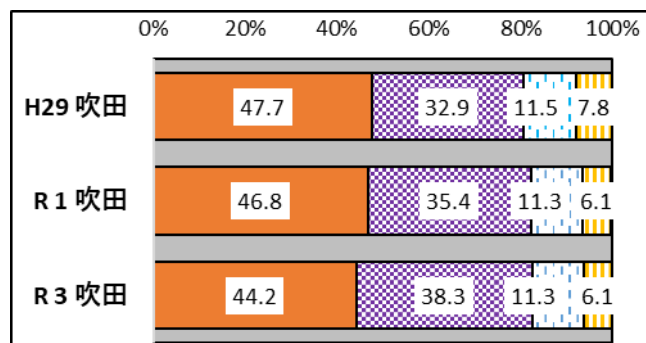
・肯定的回答率・・・小学生：82.1%（全国比－1.3%、前回比－4.1%、H29比－4.5%）
中学生：82.5%（全国比＋1.4%、前回比＋0.3%、H29比＋1.9%）

[小学校]



H29 全国	55.4	30.9	9.2	4.3
R 1 全国	53.9	31.9	9.6	4.5
R 3 全国	47.9	35.5	11.4	5.2

[中学校]



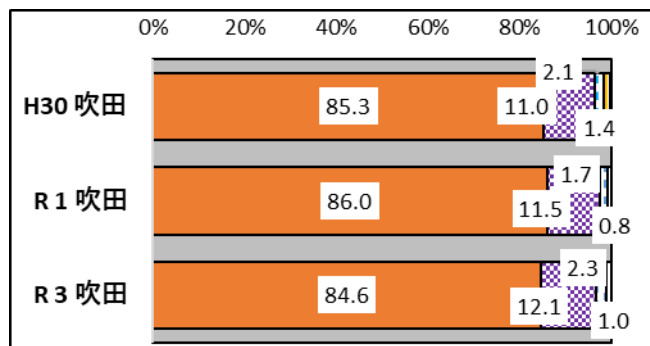
H29 全国	47.3	33.6	12.2	6.9
R 1 全国	45.7	36.2	12.0	6.0
R 3 全国	43.3	37.8	12.8	6.0

当てはまる どちらかといえば、当てはまる どちらかといえば、当てはまらない 当てはまらない

Q：いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。

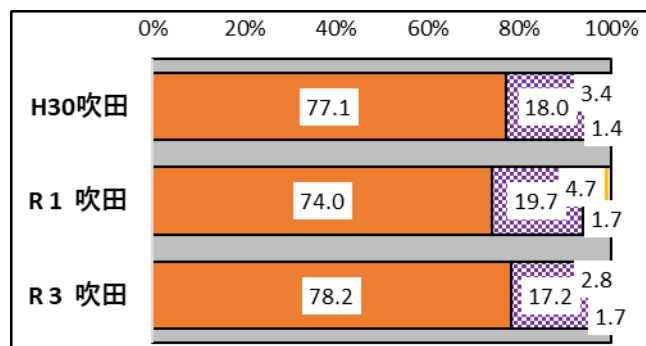
- ・肯定的回答率・・・小学生：96.7%（全国比－0.1%、前回比－0.8%、H30比＋0.4%）
 中学生：95.4%（全国比－0.5%、前回比＋1.7%、H30比＋0.3%）

〔小学校〕



H30 全国	85.9	10.9	1.9	1.1
R 1 全国	85.0	12.1	2.0	0.8
R 3 全国	84.1	12.7	2.2	0.9

〔中学校〕



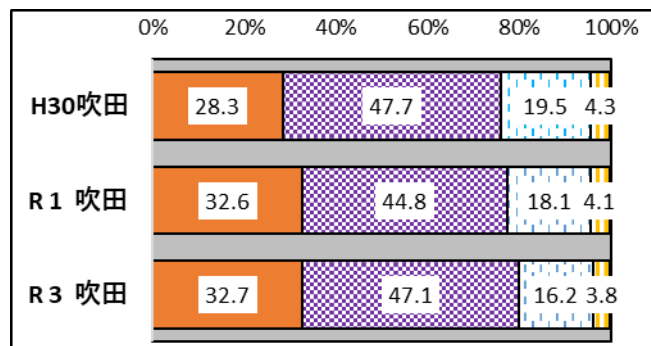
H30 全国	80.7	14.8	3.0	1.5
R 1 全国	78.3	16.8	3.6	1.3
R 3 全国	81.4	14.5	2.8	1.2

当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない

Q：5年生（中学校は1、2年生）のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。

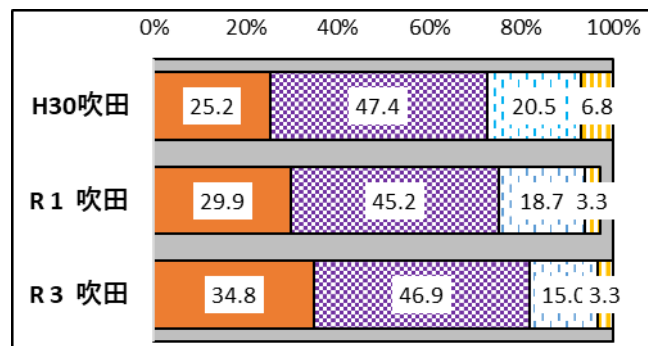
・肯定的回答率・・・小学生：79.8%（全国比+1.6%、前回比+2.4%、H30比+3.8%）
 中学生：81.7%（全国比+0.7%、前回比+6.6%、H29比+9.1%）

〔小学校〕



H30 全国	29.1	47.6	19.0	4.2
R 1 全国	33.0	44.7	18.1	3.3
R 3 全国	30.3	47.9	18.4	3.3

〔中学校〕



H30 全国	26.8	48.1	20.1	4.9
R 1 全国	26.3	47.5	20.8	5.3
R 3 全国	33.5	47.5	15.8	3.1

当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない

【平均正答率との関係】

〔小学校〕

選択肢		平均正答率（%）	
		国語	算数
1	当てはまる	72.2	79.8
2	どちらかといえば、当てはまる	66.8	75.5
3	どちらかといえば、当てはまらない	61.0	70.7
4	当てはまらない	57.5	65.0

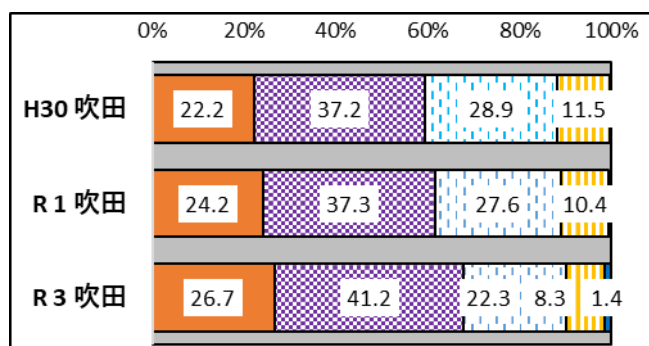
〔中学校〕

選択肢		平均正答率（%）	
		国語	数学
1	当てはまる	71.3	71.0
2	どちらかといえば、当てはまる	67.2	64.4
3	どちらかといえば、当てはまらない	60.5	54.2
4	当てはまらない	53.5	45.7

Q：5年生（中学校は1、2年生）のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫していましたか。

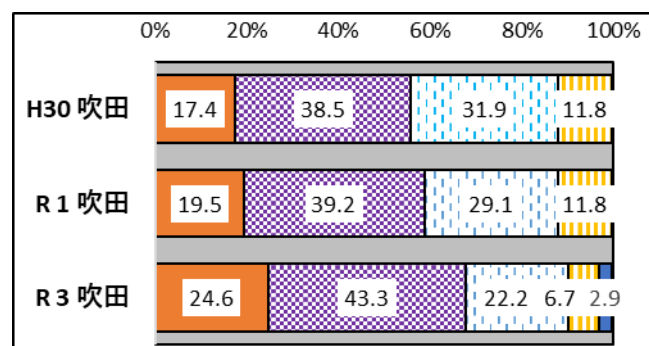
・肯定的回答率・・・小学生：67.9%（全国比+4.4%、前回比+6.4%、H29比+8.5%）
 中学生：67.9%（全国比+5.9%、前回比+9.2%、H29比+12.0%）

〔小学校〕

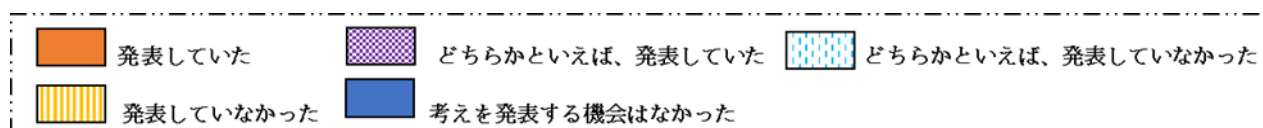


H30 全国	23.5	37.5	28.7	10.0	
R1 全国	24.7	37.8	27.5	9.7	
R3 全国	23.6	39.9	25.5	9.1	1.7

〔中学校〕



H30 全国	16.6	37.2	33.4	12.5	
R1 全国	18.1	37.7	32.4	11.6	
R3 全国	21.0	41.0	25.5	9.9	2.6



【平均正答率との関係】

〔小学校〕

選択肢		平均正答率（%）	
		国語	算数
1	発表していた	73.9	80.6
2	どちらかといえば、発表していた	68.5	77.1
3	どちらかといえば、発表していなかった	61.0	71.5
4	発表していなかった	59.4	67.2
5	考えを発表する機会はなかった	56.8	64.3

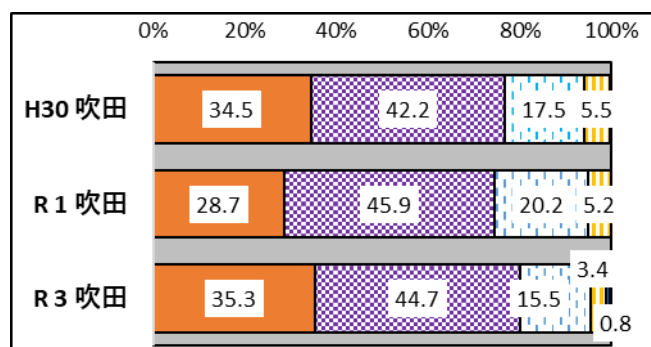
〔中学校〕

選択肢		平均正答率（%）	
		国語	数学
1	発表していた	69.4	68.2
2	どちらかといえば、発表していた	70.1	67.4
3	どちらかといえば、発表していなかった	63.0	60.5
4	発表していなかった	55.1	48.3
5	考えを発表する機会はなかった	63.0	59.6

Q：学級の友達との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。

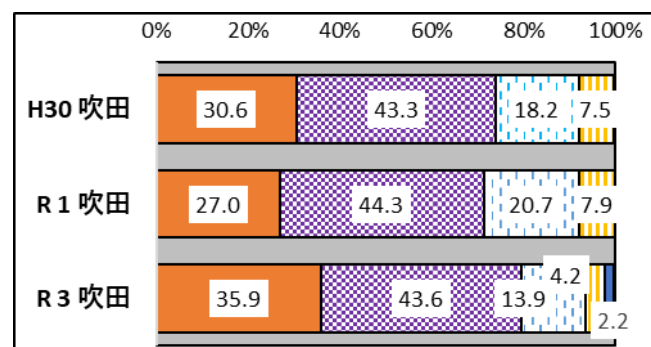
・肯定的回答率・・・小学生：80.0%（全国比+1.2%、前回比+5.4%、H30比+3.3%）
 中学生：79.5%（全国比+1.7%、前回比+8.2%、H30比+5.6%）

〔小学校〕

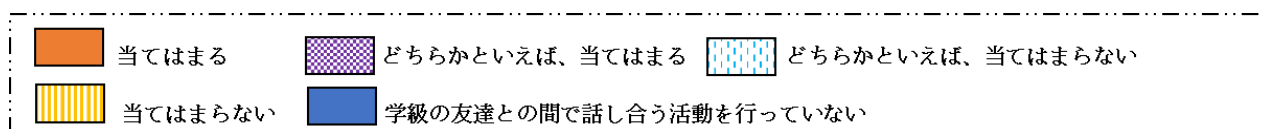


H30 吹田	34.5	42.2	17.5	5.5	0.8
R1 吹田	28.7	45.9	20.2	5.2	0.8
R3 吹田	35.3	44.7	15.5	3.4	0.8
H30 全国	34.7	43.0	17.3	4.8	0.7
R1 全国	30.3	43.8	20.5	5.4	0.7
R3 全国	33.0	45.8	16.9	3.6	0.7

〔中学校〕



H30 吹田	30.6	43.3	18.2	7.5	2.2
R1 吹田	27.0	44.3	20.7	7.9	2.2
R3 吹田	35.9	43.6	13.9	4.2	2.2
H30 全国	32.4	43.9	17.3	6.3	1.4
R1 全国	28.3	44.5	20.4	6.7	1.4
R3 全国	33.9	43.9	16.2	4.5	1.4



【平均正答率との関係】

〔小学校〕

選択肢		平均正答率 (%)	
		国語	算数
1	当てはまる	70.4	78.3
2	どちらかといえば、当てはまる	68.1	76.5
3	どちらかといえば、当てはまらない	60.6	70.7
4	当てはまらない	58.6	66.1
5	行っていない	56.7	65.1

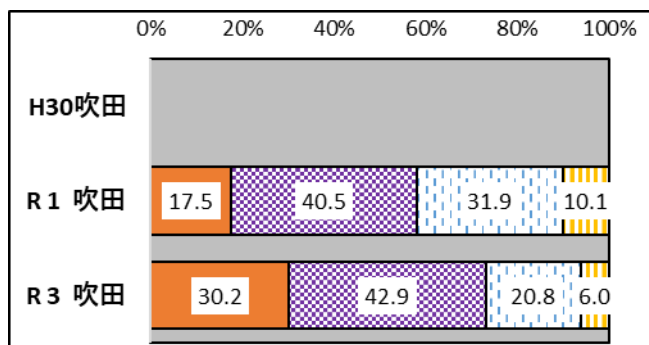
〔中学校〕

選択肢		平均正答率 (%)	
		国語	数学
1	当てはまる	70.5	68.4
2	どちらかといえば、当てはまる	67.9	65.5
3	どちらかといえば、当てはまらない	61.6	58.0
4	当てはまらない	52.0	46.2
5	行っていない	62.9	61.0

Q：総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか。

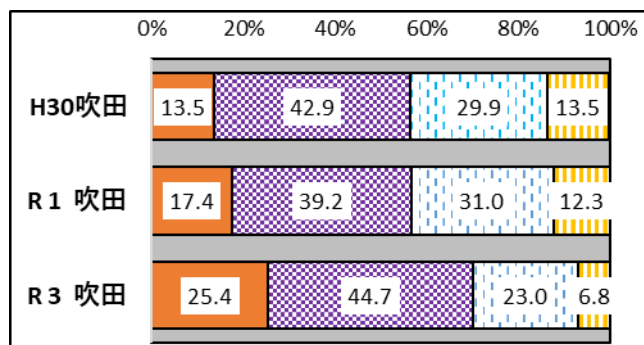
- ・肯定的回答率・・・小学生：73.1%（全国比+0.1%、前回比+15.1%）
 中学生：70.1%（全国比-0.1%、前回比+13.5%、H29比+13.7%）

〔小学校〕



H30 全国				
R 1 全国	25.1	40.6	26.7	7.3
R 3 全国	31.7	41.3	21.5	5.3

〔中学校〕



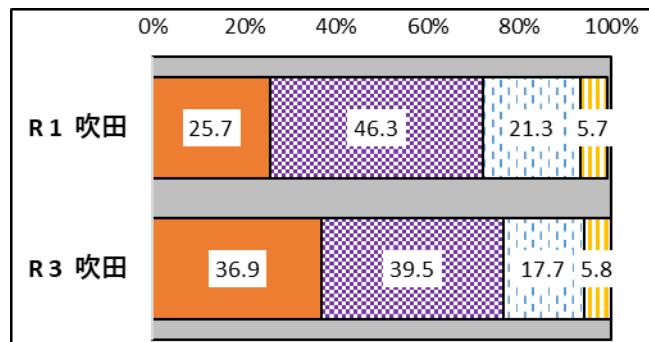
H30 全国	21.3	43.0	25.7	9.7
R 1 全国	20.3	41.2	28.9	9.4
R 3 全国	28.2	42.0	22.6	7.0

当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない

Q：あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会（学級活動）で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか。

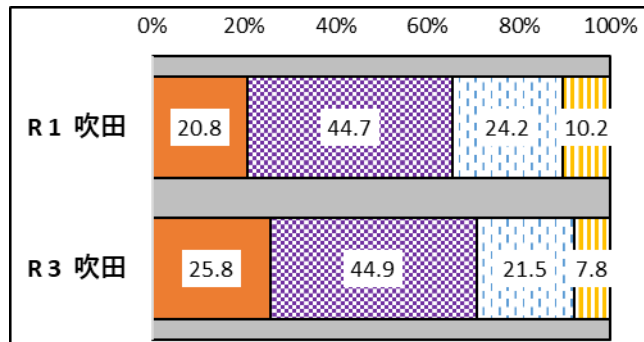
- ・肯定的回答率・・・小学生：76.4%（全国比+3.0%、前回比+4.4%）
 中学生：70.7%（全国比-3.2%、前回比+5.2%）

〔小学校〕



R 1 全国	30.1	43.9	20.3	5.6
R 3 全国	32.3	41.1	20.2	6.3

〔中学校〕



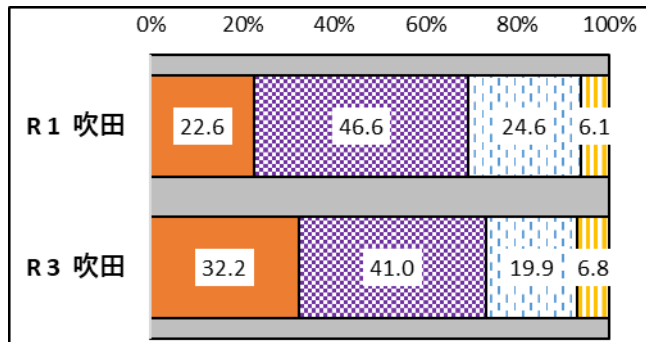
R 1 全国	25.3	46.3	21.3	7.0
R 3 全国	28.3	45.6	19.8	6.2

当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない

Q：学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思いますか。

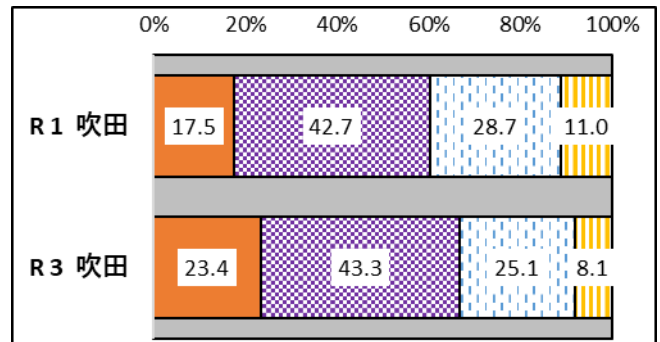
・肯定的回答率・・・小学生：73.2%（全国比－0.3%、前回比＋4.0%）
中学生：66.7%（全国比－3.1%、前回比＋6.5%）

〔小学校〕



R 1 全国	28.8	44.6	21.3	5.2
R 3 全国	30.3	43.2	20.9	5.5

〔中学校〕



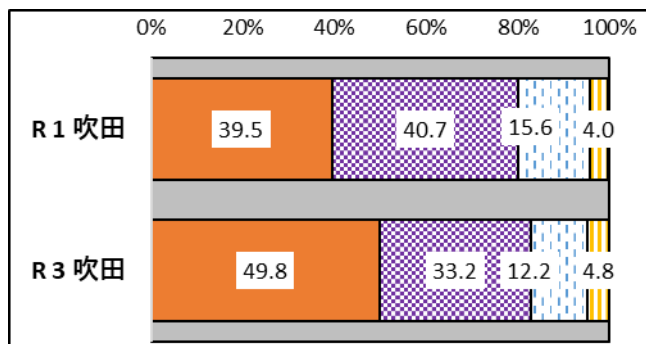
R 1 全国	21.0	44.6	26.1	8.1
R 3 全国	25.1	44.7	23.2	6.9

当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない

Q：道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思いますか。

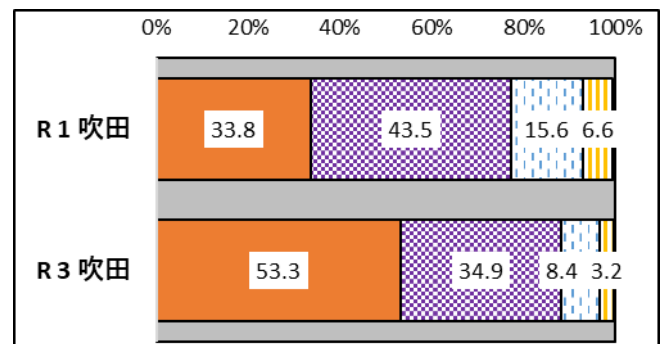
・肯定的回答率・・・小学生：83.0%（全国比＋1.9%、前回比＋4.4%）
中学生：88.2%（全国比＋2.0%、前回比＋10.9%）

〔小学校〕



R 1 全国	42.1	38.8	14.9	4.0
R 3 全国	45.6	35.5	14.3	4.3

〔中学校〕



R 1 全国	34.0	42.6	17.3	5.7
R 3 全国	48.8	37.4	10.2	3.3

当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない

おわりに

これからの子供には、「新型コロナウイルスの感染拡大」や「Society5.0」等による先行き不透明で予測困難な時代に対して、自分のよさや可能性を認識するとともに、多様な人々と協働しながら豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができる力をつけていく必要があります。

今回の調査から、学習意欲、学習方法について、一層改善すべき課題が明らかになりました。例えば、主体性・挑戦心・既習事項の活用力等については、「総合的人間力」の育成を目指すうえで、改善すべき課題といえます。こうした課題を受け、個々の学習状況に合わせた「個別最適な学び」や異なる考え方が組み合わさることによってより良い学びを生み出す「協働的な学び」を追求し、より「確かな学力」の獲得を目指して、指導方法を工夫してまいります。

本市教育委員会としましては、教育ビジョンの施策として掲げている下記項目に重点を置き、教職員研修や担当者会等を通して学校を支援してまいります。そして、学校・家庭・地域が手を携えて、「総合的人間力の育成」を進められるように働きかけ、子供達が社会に向き合える力を育成することによって、学校生活で学んだ力が、社会に出たときに真に「生きる力」となるようにこれからも研鑽してまいります。

令和3年（2021年）10月

【「総合的人間力」の育成を目指して】

●豊かな心の育成と人権教育の推進

- ・多面的・多角的に考え、議論する「道德科」の授業を要とした道德教育の推進
- ・子供を取巻く様々な人権課題を踏まえた計画的・総合的な人権教育の推進
- ・デジタル・シティズンシップ教育に基づく、適切で責任のある行動をとるための「立ち止まって考える力」を育むための教育の実践
- ・「学習活動づくり」や「人間関係づくり」、「環境づくり」を一体とした教育活動の推進

●確かな学力の育成

- ・小・中学校9年間における、系統性のある学習指導の定着
- ・子供に付けるべき力に合わせた言語活動の充実と授業評価（指導と評価の一体化）
- ・主体的で対話的な学習の充実
- ・社会に関心を持ち、自発的に調べる意欲につながる授業実践や環境設定
- ・児童・生徒の実態に応じた「個別最適な学び」の提供
- ・他者との協働の中で、多様な価値観を尊重し、自身の考えを深める「協働的な学び」の提供
- ・GIGAスクール構想における一人1台端末を活用した授業の研究と実践
- ・読書活動・学校図書館教育の充実

●生徒指導の充実

- ・小・中学校9年間における、一貫性・継続性のある生徒指導の定着
- ・校内指導体制の充実と生徒指導組織の機能化
- ・「すいたGRE・ENスクールプロジェクト」に基づくいじめのない学校づくりの推進
- ・地域・関係機関との日常的なネットワークによる情報及び行動連携